

第74号  
 発行日: 令和6年5月1日  
 発行所: 東京青山同窓会事務局  
 〒111-0032  
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101  
 工藤 義夫(74期)  
 e-mail: info@tokyo-aoyama.org  
 TEL: 090-1704-2413  
 HP: https://www.tokyo-aoyama.org/  
 発行者 日下部朋子(82回)

# 東京会報

**東京青山同窓会**  
 一東京青山同窓会年間維持費一  
 1口1,000円/2口以上(年間)  
 会計幹事: 高山佳郎(83回)  
 振込先: 極力①でお願いします。  
 ①郵便振込口座 00150-9-4074  
 加入者名 東京青山同窓会  
 ②三井住友銀行京橋支店 番 8430640  
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

コロナ後の常態へ～「6.29 東京総会」 / 火曜会 / ますらお会 / 忘年会 / 新年会 記・事務局 工藤義夫(74期)

**東京会長挨拶** 佐藤 信秋(74期)



**地震をのりこえて日本海側の拠点へ**  
 びっくりしましたね、1月1日能登半島に大地震。240人を超える多くの人命が失われ、全体では10万棟を超える住宅被害となりました。新潟県内でも2万棟の住宅が液状化等により被害を受けました。国土の強靱化を使命に活動してきた私には「何故ノーマークだった日本海側に大地震が起こるのか?」「そもそも、首都直下型地震や南海トラフが迫っている、とあおり過ぎではないか?」等々、さまざまな質問が寄せられています。大切なことはどこでも事前に徹底して防災を進めること、残念ながら大災害が起きたら極力人命、財産を守ることと思います。今回も津波を警戒して高い所に避難して助かった人達も多くおられました。新潟市も多くの被害を受けましたが、早急に復旧、復興を進めてもらおうと思います。これからも想定される多くの我が国の大災害に対し、一昨年の大雨被害や今回の地震をのりこえて、耐久力を増した新潟が日本海側の拠点として一層活躍できるように知事を先頭に進んでいくではありませんか。  
 2024.3.14 記

《参考》令和5年 総会・新人歓迎会 ; 2023. 7. 8

4年振り復活 ～「2023.7.8 東京総会 & 新人(128～131期)歓迎会」開催



令和六年 総会 & 歓迎会

**「総会 & 新人歓迎会(132期生)」**

<b>日時</b>	2024年6月29日(土)～昼～ 受付時間; 11:30～。開会; 11:50～ 開催時間; 11:50 ～ 15時
<b>会場</b>	日本プレスセンタービル 10階 レストラン「アラスカ」 千代田区内幸町2-2-1  電話 ; 050-5589-8667
<b>会費</b>	男性 : 8,000 円 女性 : 7,000 円 学生 : 3,000 円 注)参加費は事前納付書で。返金不可。 納付書: 郵送者以外は、本会HP掲載かメール配信で。
<b>プログラム</b>	◆総会・新人(132期)歓迎会◆ ◆講演会・なし、(映像等)他... ◇主催 ; 94期生一同 ◇懇親会も ◇着席ビュッフェ

*学生諸君もお待ちしております*

第5回・カジュアル「ますらお会」 ; 2023.11.11      偶偶数月第2火曜会～2023年の忘年会 ; 2023.12.11      2024年の新年会 ; 2024. 2. 13



<会計担当>高山佳郎(83期) > 年会費2千円の納付先  
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または  
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

問合

<事務担当> ～ よろずご連絡など ～  
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413  
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

**本年・2024年は <母校創立132周年> ... 三世紀に亘って!**

<p>&lt;創立&gt; 1892(M25)</p>  <p>♪青陵♪ (中学校歌; 1922)</p>	<p>1954(S29)焼失 ↓ 同年 青山同窓会発足 ↓ &lt;1～4期工事&gt; 1960(S35)完工</p> <p>♪女子入学♪ (1950年; 61期・数名)</p> 	<p>&lt;現校舎&gt; 1999年～ (平成11)</p> <p>男女比; 半々 全県一区</p>  <p>未来へ</p>
---	--	---

2024年～「6.29(土・昼) 総会」／偶数月第2火曜会／11月・ますらお会／忘年会 (事務局)

**青山**

2024年は 創立

**132年**

**青陵**

《各種行事予定》 都度メール配信も

◆総会・新人歓迎会 6月29日(土)昼

◆ガジュアル・ますらお会 11月16日(土)夕

◆「偶数月～第2火曜の会」  
6月11日(火) 夕方  
10月8日(火) 夕方  
12月10日(火)夕方 兼・忘年会 等々



2024(令和6)年 東京青山 ～ 行事予定日 ↓

1月					2月					3月					4月				
日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	11	12	13	14	15	11	12	13	14	15	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	21	22	23	24	25	21	22	23	24	25	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	26	27	28	29	30	26	27	28	29	30	26	27	28	29	30

5月					6月					8月				
日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	11	12	13	14	15	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	21	22	23	24	25	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	26	27	28	29	30	26	27	28	29	30

9月					10月					11月					12月				
日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	11	12	13	14	15	11	12	13	14	15	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	21	22	23	24	25	21	22	23	24	25	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	26	27	28	29	30	26	27	28	29	30	26	27	28	29	30

総会

29

ますらお会

16

東京青山 ～ 総会・新人歓迎会 アーカイブ・抜粋

H29東京青山同窓会「総会兼新人(125回)歓迎会」一次会 ANAインターコンチネンタルH東京 2017.6.16(金)



講師:南場智子氏



2019/令和元年「総会・(127期)新人歓迎会」アラスカ/140人

アラスカ(日比谷地区 プレスセンター店) <127期新人> 講師:大越健介氏



《ますらお会》 第1～5回 (2020～2022;コロナ中断)

第1回; 2016



「老若男女34人が集い」...♪ 丈夫魂 いまここに♪



「平成ラスト」のますらお会



第3回; 2018



第4回; 2019



第5回; 2023

コロナで中断<2020～2022年>

128期生の「プチ歓迎会」/「プチ歓送会」/「新年会」



128期 プチ歓迎会「和食ランチ と 有楽町ガード下で昼飲み?」



128期・菅森杏子「プチ歓送会」 「新年会」128期・真貝香子

# “2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

## 2023秋叙勲・瑞宝中綬章

猪口 孝 氏

国際政治学者 青山70期

## 教育研究功勞で受賞

～その横顔～

2023.11.3 朝日新聞

## ■アジア各国の政治外交比較研究 前・新潟県立大学長

猪口 孝さん(79)



「ふるさとは語ることなし」。取材に故郷・新潟にある坂口安吾の碑の言葉を口にした。

2009年の新潟県立大開学以来、長く理事長・学長を務めた。他の大学と異なる受験日を1～3月に設けた。「受験の機会を増やし、全国47都道府県から優秀な学生が集まった。根強い男女差別をなくす突破口にもなった」と振り返る。地方再生は女性の力をいかしてこそだという。

政治学の国際化に注力した前半生を「乱気流」と形容する。1955年の新潟大火に遭遇。中学1年のときは大病による出席日数不足で留年しそうに。「消極的で内向的」な性格は、東京大と米国留学の競争の中で鍛えられた。東大や上智、中央、桜美林などで教え、国連大学上級副学長や国の法制審議会委員も務めた。

アジア各国の政治・外交と「生活の質」を比較研究し、著書は日本語で100冊、英語でも50冊を数える。

「戦後も多くの法律が戦前とそう変わらず、国内法の英訳も遅れている」。鋭い国際感覚で課題を指摘し、今後の針路を見通す。(大内悟史)

## 《 Profile : 猪口 孝 》

1944年、新潟県生まれ。中央大学総合研究開発機構共同研究員。中央大学教養学部卒業。東大教授、国連大学副学長、中央大学教授、新潟県立大学学長、桜美林大学特別招聘教授を経て2023年から現職。日本語と英語でそれぞれ100冊、50冊刊行。米国最大の人名事典、Marquis Who's Who in America 2021, に掲載。Research.com に政治学分野で世界で1226位、日本で#1位にランクイン。

◆東京青山同窓会前会長・70回卒◆

## 【猪口 孝 氏の謝辞】

謹啓

中秋の名月も過ぎ、ウサギの餅つきを満月に描き、社会貧乏などでこのところ、大変な毎日を経ることが普通になりました。

この度、思いがけなく秋の叙勲で私も瑞宝章中授賞を頂くとの通達が届けられました。

私の半生をふりかえれば、学者研究者の道一筋で、失敗に続く失敗を重ねてきましたが、

家族、親族、職場となった大学(上智大学、マサチューセッツ工科大学、東京大学、国連大学、中央大学、新潟県立大学、桜美林大学、

そして短期的に研究教育に対座したハーバード大学、ジュネーブ大学国際関係大学院、エッセクス大学、欧州大学院研究所、パリ政治学大学院、オーストラリア国立大学、北京

大学、ソウル国立大学、シンガポール国立大学、デリー大学、ガジャマダ大学など、寛容で

親切な同僚・友人のお蔭で漸くここまで辿り着きました。これも皆様のお蔭です。

大学の同僚・友人に加えて、出身の新潟小学校・寄居中学校・新潟高等学校の同窓生にも感謝します。新潟時代は消極的で口数も少なかった私を積極的に学者研究者人生を切り

開こうとしていた私の前半生、80年近くの歳月を助けていただいた方々です。頂上どころか山麓あたりを亀のように歩んできた前半生だけに。

とくに衛藤審吉教授(国際政治・中国政治)、武者小路公秀教授(国際政治)、故ヘイワード・アルカー教授(政治学)、故ルシアン・パイ教授(比較政治・中国政治)、故イシエル・デソラ・プール教授、故ジャン・ブロンデル教授(比較政治)、故ロナルド・イングルハート教授(民主主義価値観)、故ラッセル・ハーディン教授(政治理論、信頼研究)、故デビッド・ヘルド教授(地球政治)の思い出に、レー・チク

ウィン・リエン教授(応用情報科学)、徳田安春博士(応用医学・公衆衛生学)、藤井誠二教授(公共経済学)にはそれぞれの共著者として、田中明彦教授(国際政治)、チムール・ダダバエフ教授(中央アジアの社会文化)、園田茂人教授(アジア社会学)は共著者として、ジョゼフ・ナイ教授(国際政治)、ケネス・パイル教授(日本史)、G、ジョン・アイケンベリー教授(国際政治)、グレゴリー・ガザ教授(日本政治)、クリスチャン・ヴェルツェル教授(比較民主主義)、ハンス・ディーター・クリンゲマン教授(政治行動論)、ヴォルフガング・ヤゴジンスキ教授(世論調査論)、ラッセル・ダルトン教授(比較政治)、マーシャル・パウテン教授(インド政治)、アシス・ナンディ教授(社会人類学)、河東哲夫大使(ロシア・中央アジア)、ピーター・カツェンスタイン教授(比較政治)、アンドルー・ネイサン教授(中国・アジア政治)、アン・マリー・スローター教授(国際法・米国外交)、ホーリ・セメトカ教授(世論調査・マスコミ・ミニコミ論)、ミゲル・パネサス教授(比較価値論)、リチャード・エステス教授(生活の質<QOL>研究)、エテル・ソリンゲン教授(国際安全保障、中東と東アジア)、プルネンドラ・ジェイン教授(日本政治、南アジア・東南アジア政治)、ナズリ・シュクリ教授(地球大の公共政策論)、ドー・チュル・シン教授(価値観、東アジア)、ウィリアム・R・トンプソン教授(実証国際政治学)、アレックス・ミカロス教授(生活の質<QOL>研究)、グラシェラ・トノ教授(生活の質<QOL>研究、女性と子ども)、ジョン・シュ・ワン教授(価値観、東アジア)は私の著作に対する賛辞をフロント・マターに寄せてくれたないし学術雑誌でポジティブな書評を寄せてくれた。

謹白

令和5年12月吉日

猪口 孝

## 南場智子 会長を訪ねて

～ディー・エヌ・エー(DeNA)～

青山128期 山田健二

128期の東京大学工学部4年山田健二と申します。12月中旬の冬の日、私は大学の同期である128期星尊也と共に、青山89期で株式会社ディー・エヌ・エーの代表取締役会長である南場智子氏にお会いする機会に恵まれました。どうしてもお話を伺いたいとの申し出にて(東京青山事務局仲介にて)。

南場氏は、驚くほど親しみやすく、熱意に満ちた方でした。そして南場氏は私たちに、若いうちに海外の第一線を体験することの重要性について語っていただきました。スポンジのように多くのことを吸収できるタイミングは限られているため、その間にできるだけ「良い水」を吸うことは、その後の人生を大きく左右するものだと教えてくださいました。また、「世界で通用しない人間が日本のリーダーになれるはずがない」とのお言葉は特に印象に残っています。

このような貴重な機会を与えてくださったことに、心から感謝しています。南場氏からのお言葉を胸に、来春から始まる大学院では、興味を追及し、密度の濃い時間を過ごしたいです。

東京大学工学部システム創成学科PSIコース4年 山田 健二

Mail: yamada-kenji77@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



ディー・エヌ・エー(株) DeNA 本社にて 南場智子会長と 2023.12.11 夕 (左:山田健二、右:星尊也(東大工4年))



“TV報道・他に見る「青山ゆかりの方々」2020～2024年” 編集:工藤義夫(事務局)

↓ 大越 健介 (88期) TV朝日・報道ステーションキャスターで。… 太谷翔平ニュース



↑ 大越 健介 (88期) … 戦地で取材を …



↓ 成澤 良 (105期) ~ NHK記者・解説委員 ~ ゆう5時にも登場



↓ 佐藤信秋(74期)



↓ 関谷直也(102期)



↑ 小山 信也(89期)監修



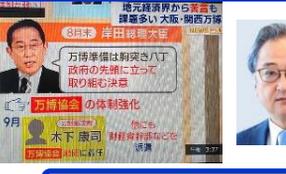
↓ 坂口 安吾(31期・相当) 行き付け ~ 文豪が集う銀座路地裏の老舗バー「ルパン」~



↓ 八田進二(76期)経営学・青学名誉教授 ~ 日大・談合コト



↓ 木下康司(83期) ~ 万博協・目付役



↓ 南場智子(89期) 企業賀詞交歓会 2023.1



↓ 森 達也 (83期) 映画 Doc.作家 …「福田村事件」



↓ 玉川太福 (106期・) 浪曲師 …「祐子のスマホ」 …「寅さん」…



↓ 上原誠己 (77期)・浄瑠璃三味線奏者 ~ ドナルド・キン養子



↓ 内海桂子と新婚の、成田常也(73期)



↓ 大越健介(88期) 徹子の部屋で



↓ 広田有紀(122期・医師);陸上800mパリ五輪出場目指す→6.27-30 新潟で選考会



↓ “アラスカ”レストラン 日本プレスセンタービル



↓ 帝劇ビル ~ B2で、以前 東京青山 “ますらお会”開催



医師免許持つ中距離ランナー  
「広田有紀」東京五輪選考会  
<青山122期> 2021.6.27 宋希樹

東京青山の総会開催

東京青山懇親会 ~ (番屋)

# 2023年11月18日 ~74回生同期会【有志の会】新潟で7年振り

記 工藤義夫(74期)

◆新潟での卒5年毎定期同期会は2016年以降開かれてないが、◆2023年再開の東京同期会(=酔都志会)での話題から新潟の川上君が音頭を取りメール等の広報にて全国各地からの有志同期会となり、45名が久しぶりに再会した。  
記・工藤義夫



司会：川上 耕

新潟市・万代「MR. & MRS. CAFÉ(ミスター & ミセス カフェ)」～イタリアン 15～18時



- 橋本昭一郎 桜井正夫 小原俊雄 徳原正春 富樫孝一 馬場泰  
 森澤(石田)盾 小竹孝之 本間正一郎 鹿島正裕 谷内田健次 石黒稔 木村喜藏 玉野正樹 永井明彦 石井明  
 工藤義夫 川上耕 佐藤信秋 加藤博 井海範子 斉数正博 太田一雄 中村公美子 藤田広子 三浦百合子 和泉潤 高橋信郎 渡部終五  
 藤田 久 大滝均 石本陽子 原信一 久保克巳 太田悠子 川田澄子 青海 潔  
 宮川公子 高橋 保 吉川誠之助 安田雅子 石原法子 島津満里子 田中浩子 広野光子



- 石本(君)陽子 安田(高橋)雅子 石原(望星)法子 藤田(群上)広子 中村(大塚)公美子  
 三浦(深山)百合子 宮川(足立)公子 広野(西田)光子  
 川田(高橋)澄子 田中(淺野)浩子 井海(青柳)範子 島津(中川)満里子 太田(長沢)悠子



# 「演出家・青井陽治 ～74期相当」～ 2017年 歿

追悼記；葉美江（74期）  
編集；工藤義夫（事務局）74期

## 『演出家・翻訳家』

### 《青井 陽治》

～劇団四季～米国演劇翻訳演出～  
1948.3.3 ～ 2017.9.1 (69歳)  
青山74期 (2年時編入～同転出)

#### ◆青井 陽治 (あおい よしじ)

1948年3月3日 - 2017年9月1日は、翻訳家・演出家。日本演出者協会理事。

神奈川県出身。東京の高校⇒新潟高校⇒福岡で高校卒、国際基督教大学中退。1969年劇団四季演劇研究所に入り『ウエストサイド物語』初演出。俳優、翻訳者として活動。1976年フリー、アメリカ現代劇やミュージカルの翻訳・演出に取組。1996年第3回湯浅芳子賞受賞(舞台での「ジェフリー」「ジェミニ」「ソフィストリー(詭弁)」「ラブ・レターズ」「セイムタイム・ネクストイヤー」などの翻訳)。上演作に「真夜中のパーティ」「陽気な幽霊」「ラブ・レターズ」など。近年は次代を担う演劇人育成、演劇教育にも積極的に携わり、東京芸術大学音楽学部ではミュージカル概論の講義を担当。新派では『あじさぬ』などを新しい感覚で演出した。07年には25年ぶりに舞台復帰し、蜷川幸雄演出『恋の骨折り損』でボイエット役を演じた。2017年9月1日、膵臓がんのために死去[1]。69歳没。戒名は、遇劇院釋導陽。



#### ◆新潟高校での思い出・追悼記◆

爽やかな初夏の風吹く季節に青井陽治君という目のクリクリと可愛らしい小柄な男子が東京から新潟高校2年に転校してきました(昭和39年; 1964年)。クラスも違っていて、どういったきっかけだったのか記憶にないのですが、ハチという仇名の中野君と三人、なぜか仲良しになっていました。どういふ友達かと云えば、早い夕食を終え、まずは県立図書館で待ち合わせ、勉強はさっさと済ませ、当時私が下宿していた寄居町まで二人が送ってくれる訳です。かけこやかくれんぼ、果てはチャンバラやら、およそ高校生とは思えないばかばかしい遊びで大騒ぎしながら夜道を帰るのです。一体、何がそんなに面白かったやら、今考えたら不思議ですが、遠回りしたり二往復したりで門限ぎりぎりまでひたすら遊び呆けました。同級生というよりは、弟や妹のように思っていた私のいじわるやわがままにも、ニコニコいつも優しい青井君でした。でも、程なくして彼はまた福岡に転校して行くことになりました。お餞別にと作ったブックカバーの刺繍が余りにも少女趣味かとためらう私に、あなたは喜んで受け取ってくれましたね。ハチと一緒に新潟駅で見送ったのが最後、それきり二度と会うことは叶いませんでした。「さよなら 東京の大学に行ってお芝居しようね」と約束したのに、私の方とはもとより才能もなく早々に挫折したというのに、青井君は見事に夢を叶えていたのですね。あなたのピュアな感性で作上げた「舞台」は、どんなにか素晴らしく、多くの人に感動を与えたことでしょう。そして、あなた自身も誰からも愛され幸せな人生だったと信じています。

★2024年3月／葉美江(青山74期)★

#### ◆朗読劇『ラブ・レターズ』◆

公開稽古を行った(左から)松尾スズキ、大竹しのぶ、演出の青井陽治。



#### 大竹しのぶ、ペア代えて朗読劇再出演に「不倫同士みたい」 2010-06-21

朗読劇『ラブ・レターズ』の20周年記念公演が21日、東京・渋谷パルコ劇場で初日を迎え、本番前同日主演する松尾スズキと大竹しのぶが公開舞台稽古を行った。大竹は日本初演時に役所広司とのペアで出演しており、松尾も2002年に荻野目慶子とのペアで出演。同作でペアを代えての再出演は異例で、大竹は「役所さんに『浮気しちゃってラブ・レターというかメールをしました。不倫同士って感じ』と笑わせた。

同作は男女2人の幼なじみがそれぞれの人生を歩みつつ50年間にわたって書き綴ったラブ・レターを、シンプルな舞台上で読み進めていくという傑作朗読劇。1990年8月の日本初演以来、延べ380組が熱演してきた。2人での稽古の時間があまり取れなかったという松尾は初日公演を控えて「大竹さんとはいろいろ仕事をして、いつもリードしてもらっているの、今日くらいは僕がすべてリードします」と男らしく意気込み、大竹を喜ばせた。

「最初は役所さん(とのペア)だったから、浮気する感じですが…」と恥じらいを見せた大竹は事前に役所にメールで報告したいといい、「『もう20年たったのか。彼女が取られるような気持ちです』って来て、ちょっと嬉しかった」と乙女心をのぞかせた。



話題がW杯に及ぶと、大竹が「観ますよー！ わりと大きな声を出しながら必死に応援して。でも負けた方がかわいそうになっちゃって」と語った一方で、松尾は「僕んち、テレビが壊れて…」とボツリ。最後には「W杯、観てなくてすいません！ 代わりに『ラブ・レターズ』で頑張ります」と謝罪し、爆笑を誘っていた。

#### ◆葬儀；故青井陽治さんの人柄

～30年来の友だった奥田瑛二さん  
2年前の舞台卒業撤回 2017/09/08

1日に膵臓がんでなくなった演出家、故青井陽治さん(享年69)の葬儀・告別式を取材した際のことです。縁の下の力持ちの青井さんの人柄をしのぶように元宝塚歌劇団の女優、一路真輝をはじめ市村正親、小堺一機、渡辺えり、ラサール石井、鶴見辰吾、篠井英介、中川晃教…と300人を超える人が弔問に訪れました。

青井さんと同世代の奥田瑛二が妻の安藤和津、娘の安藤サクラと弔問の列に並び、取材に応じてくれました。奥田は、青井さんが演出を手がけた1983年上演の「真夜中のパーティ」に出演。「芝居での陽の部分で解放してくれたんです。もう一つの表現の仕方をつくってくれた」といいます。その後もたびたび出演依頼が届くも「難役で。僕は七転八倒しているのに、(青井さんは)ニコニコで見ている状態で捨て置かれていたが、愛情はたっぷりありました。友情と兄貴的な指導者で、優しくと厳しさを兼ね備えた人」と30年来の友を紹介してくれました。

それだけに「やりたい芝居がゴマンとあったと思う。カナダもイギリスもニューヨークも一人で乗り込んでいて、つかんでくる人でしたからね」とも。「舞台の道をつくってくれたのは青井ちゃん。(舞台が)嫌だなんていわないで、もう一回、板(舞台)の上に立ちたいなと思いました」と2年前の舞台卒業を撤回。

もう1人、取材に応じてくれたのが城田優でした。近年、「エリザベト」などでミュージカル俳優として活躍している城田が初めて演出をした2016年のミュージカル「アップル・ツリー」で、指南を受けたのが青井さんでした。

ミュージカルの企画段階から青井さんは参加。「右も左もわからなくて手探りだったけれど、詳細に教えてくれました。青井先生のおかげで千秋楽を迎えられました」と振り返ってくれました。

稽古場に連日、足を運んでくれた青井さんに「大丈夫ですか?」などと、ことあるごとに質問をする。「城田君のやっている方向はすごく正しいと思うよ」「城田君は感覚がいい。芝居をつくるのにリアリティーがある」と言われ、「糧になり、励みになりました」と演出家デビューの裏側を明かしてくれました。

そして、「もっと、もっと果たしていきたくてであろう舞台やミュージカルの思いや熱があって…。いろいろなお話を聞くことができてました。遺志を継げるように今度、舞台を演出するようなときは陽治さんに天国から見ていただけるようなすてきなハッピーな舞台をつくりたいと思います」と青井イズムの継承を約束してくれました。

青井さんの戒名「遇劇院釋導陽(ぐうぎやくいんしゃくどうよう)」は演劇を愛し劇場を愛した人柄を表しています。棺に入れられた原稿用紙と鉛筆で、天国でも執筆活動をしてくれることでしょう。



第12号 2014年5月



## “2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

「うちを辞めてまで独立する人は出資で応援します」 特集  
DeNAが挑むニッポンの起業【1】  
2023.10.19 小太刀久雄 日経ビジネス記者

南場 智子 (DeNA創業者)

&lt;青山89期&gt; 2023年5月15日 METI Journal



## 《南場智子 プロフィール》

1986年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。  
1990年ハーバード・ビジネス・スクールでMBAを  
取得。1996年マッキンゼーでパートナー(役員)  
就任。1999年にディー・エヌ・エーを設立し、現在は  
代表取締役会長。2015年より横浜DeNAベイ  
スターズオーナー。2021年からは女性初の経団連  
副会長も務める。

◆東京青山同窓会講演 : 2017年総会 ◆

会社から独立したい優秀な社員には出資してまで応援し、自社を超えるほど壮大な夢を描くならなお良い。ディー・エヌ・エー(DeNA)の南場智子会長は、自ら立ち上げたベンチャー・キャピタル(VC)で日本の起業環境に風穴を開ける。他のVCとも協力しどんな世界を目指すのか、話を聞いた。

Q. ディー・エヌ・エーは、独立を前提とした人も入社可能なのですか。

A. 南場氏: 全くオーケーですよ。入社段階で、「絶対独立するんだ」と言っている人は起業家精神があるから、ディー・エヌ・エーは大好きなんです。やっぱり「永久ベンチャー」と我が社は言っているので、ずっと新しいことに挑戦し続けたい。型にはまってそれにみんなが収められていくような、その型を踏襲して繰り返して事業をしていくような会社にはしたくない。それをとても大事にするので、起業家精神の旺盛な人は好んで入れるんですよ。

Q. そのほうが仕事を学ぶスピードも速いですか。

A. 南場氏: 個人として学びのスピードも速いし、やはり会社への効果も重要です。私たちもうっかりすると、会社の中の常識ができてしまっちゃう。だから私たちは「良質な非常識」をすごく歓迎しています。常識を打ち破るところ、常識を疑うところから新しい事業が生まれ、既存事業も発展の可能性が出てくると思っているので。

ディー・エヌ・エーはゲーム、スポーツ、医療、ヘルスケア、さらに街づくりもやっています。野球という非常に伝統的なスポーツについても、その伝統を受け継ぐ部分と、新しさを求める両面に挑戦しているんですよ。発展に向けて、あえて非常識な発想を取り入れるということです。

だから会社としての魅力にも自信があり、「仕事が面白いから独立にこだわる必要がない」と感じて、長く続けてくれる人も多いです。離職率はIT業界の平均より、うんと低いんです。そうやって大活躍してくれるんだけど、中には「やっぱり起業したい」という人がいて、その人たちはみんな送り出していました。その後も個人的には仲良くしていただけたけど、会社として公式に応援するという事はなかった。そこで、2019年に立ち上げたベンチャー・

ベンチャーズを活用することにしたのです。活躍して外に出る人には、個人的なつながりを超えて公的に後押ししてあげていいじゃないかと。

南場さんが起業して、20年目という節目でしたね。

南場氏: 20周年記念で会社をアップデートしていこうとみんなで企画を練り、その1つの目玉だったんですよ。それから米国にいた渡辺大(現在はデライトのマネージングパートナー)が日本のスタートアップの状況を見て、「あんなに優秀な人材が日本にはたくさんいるのに、スタートアップエコシステムの米国との差は何なんだ」と思っていた。そうした思いが結実したのがデライト・ベンチャーズなんですよ。

「どうしても独立したい」という人を公式に後押しし、出資という形でもつながり続けていく。その人たちの成功が、出資した分のリターンにもつながる。ずっとかかわり続けられれば、例えば彼らが(自社の)買収先を探すときも、ディー・エヌ・エーのドアももちろんノックしてくれる。それから出戻りもあると思うんですよ。大失敗も大成功も、中成功でもいいんですけど、出戻りは歓迎しますから。

## 創業者にドカンと株を持たせる

デライトの出資は、何にこだわっていますか。

南場氏: よく大企業がやっているのが、(創業者に)少しエクイティ(株式)を持たせるという資本構成比率ですね。うちはそうではなくて、むしろ創業者には当初82%から95%というマジョリティーを持ってもらうんです。堂々と自分の会社としてスタートしてもらいます。

起業家の志というのは金額に換算しにくいので、創業時のバリュエーション(企業価値)は算出が難しいものです。もっと後期のレイターに入ると厳密になり、主幹証券会社なども入ってきて、類似会社方式やディスカウント・キャッシュフロー(DCF)方式などで価値を試算しますが、シードやアーリーのステージではそうした計算ができないので、創業者の持ち分が低くなるのが起こり得ます。

しかし、例えば提携なら解消することも可能ですが、資本政策というのは時間的なものではありません。

創業したときの資本構成というのは(後の資金調達で各者の持ち分が希薄化したとしても)経営に影響し続けるものです。そこで起業家に苦労させたくない。だからちゃんと創業者にマジョリティーを持たせ、最初からある程度のバリュエーションをつけて、デライト・ベンチャーズがマイノリティー出資するというをやっているんですよ。

## 大企業の滞留人材、もっと起業を

ユニークな取り組みもありますね。

南場氏: 「ベンチャー・ビルダー」というんですけど、まだ起業のアイデアが固まっていなくても、独立を前提として企画を温めて実行まで持っていく仕組みです。デライト・ベンチャーズは2つの面があり、純投資をする部分とベンチャー・ビルダーをやる部分。後者は私もそうだし、坂東龍(マネージングパートナー)なども壁打ち相手になります。そこで事業をつかっていき、うちだけじゃなく他のVCにも(資本を)入れていただくという形で独立します。

投資ステージはなぜシードとアーリーに特化したのですか。

南場氏: このファンドの強みが生きるステージなんです。例えばベンチャー・ビルダーは、ディー・エヌ・エーで「モバゲー(Mobage)」や「モバオク」をつかった、天才エンジニアの川崎修平が参画しています。先ほどの坂東は、「みんなのウェディング」など様々な新規事業をつくってきました。ディー・エヌ・エーがまだ海のものとも山のものとも分からないような時代から、大きく成長する上で最も重要な役割を果たした2人です。

そして私もゼロから会社を立ち上げた経験があるので、サポートの意義があるのはアーリーステージじゃないかなと思っています。ディー・エヌ・エーもエンジニアのキャパシティが足りなかったら助けたり、創業期に気を付けなきゃいけないことについて助言したりと、支援しています。

デライトは純投資を含め、40社ほどに出資してきました。投資でゴーサインを出すポイントは何かでしょうか。

南場氏: 日本のスタートアップエコシステムの最大の課題が、数は増えてきたんですけど、大きいインパクトを提供する会社がまだ少ないということですね。新規株式公開(IPO)をみんな目指すのですが、だいたい(上場時の規模で)50億円や60億円が平均値じゃないですか。それはもう海外と比べると圧倒的に小規模にとどまっている。

何か変えていくことを考えたときには、最初から、ある程度グローバルに大きなインパクトを提供するというビジョンを持つことが必要です。国内の事業も別に私たちは忌避するわけではなくて、非常にオープンマインドなんですけれど、とつとも大きく課題を解決する目標を持ってほしい。そうじゃないとスタートアップである意味がないとも言える。

日本には(既に名声を得ている)エスタブリッシュな会社がたくさんあり、常識の延長線上の事業というのは、とても上手にやるんですね。ただ、非常識なくらいのイノベーションというのは、その業界のブロじゃない人からしか出てこないんですよ。それはやっぱりスタートアップじゃないとできない挑戦だと思ってるんですよ。ところが日本でこの30年、あまり生まれてないというのが最大の課題です。

この20年を振り返っても、私たちの生活に役立っている発明は何か。インターネット関連、スマートフォン、検索エンジン、ChatGPT(チャットGPT)など、米国のペイエリアでVCのサポートを受けた企業によるプロダクトやサービスが多いですね。

## 経済成長を左右するVC業界

ファイナンスが肝心ということですか。

南場氏: 日本からも、どこかいインパクトを提供できる企業を生み出すことは私に存在の北極星なんです。そこで注目すべきはVCの持っているんです。世界の企業価値(時価総額)トップ10を見ると、GAFA(親会社のアルファベットを含むGoogle、アップル、フェイスブック、アマゾン・ドット・コム)を含め、多くの企業がVCが支援してきた。しかも1990年以降に出てきた企業も多く、新陳代謝が起きている。

日本は全然、そんなことになっていない。伸びてきた企業もあるけれど、企業価値のトップ層は同じ顔触れなんです。この人たちが脅かして超えていくような存在がないと、経済全体として成長しないわけですね。

日本の大企業は戦後に頑張っって伸びて、現在はデジタルトランスフォーメーション(DX)やグリーントランスフォーメーション(GX)などで、少し伸長しようとしている局面です。一方、米国は既存の大企業そのものを乗り越える新たな企業が出てきた。

もう1つ重要なのはM&A(合併・買収)です。アルファベット傘下のグーグルも、実際にはプラットフォームとして成熟段階に入っていました。もしアンドロイドやユーチューブを買収していなかったら、前時代のモデルの人たちになっていた可能性さえある。成功を収めた企業が、次世代のスタートアップを買収してアップデートし続けることは重要なのです。日本はまだ、そうした循環があまり起きていない。

米シリコンバレーのメカニズムがうまく機能したので、今それを学んで完全コピーしてやろうというのが欧州です。中国のスタートアップも大きく発展した背景には、シリコンバレーからの投資がありました。

「うちを辞めてまで独立する人は出資で応援します」 特集 DeNAが挑むニッポンの起業【1】 2023.10.19 小太刀久雄 日経ビジネス記者

### 前頁から続く ~

もう一つ重要なのはM&A(合併・買収)です。アルファベット傘下のグーグルも、実際にはプラットフォームとして成熟段階に入っていました。もしアンドロイドやYouTubeを買収していなかったら、前時代のモデルの人たちになっていた可能性さえある。成功を取めた企業が、次世代スタートアップを買収してアップデートし続けることは重要です。日本はまだ、そうした循環がありません。米シリコンバレーのメカニズムがうまく機能したので、今それを学んで完全にコピーしてやろうというのが欧州です。中国のスタートアップも大きく発展した背景にはシリコンバレーからの投資がありました。



「アホみたいなアンビション」にもっと投資し大成功を目指すべきと南場氏は強調 (写真: 伊藤菜々子)

### 深い谷を支えるリスクマネー必須 エグジット(株式売却)の選択肢の幅も日本の課題でしょうか。

南場氏: 米国ではM&Aがエグジットの多くを占めています。日本だと、大半はIPOしか選べない状態なんですよ。規模が小さいうちでも上場しやすいという制度的な背景もあります。

私はIPOを目指すのが悪いとも言ってないし、中小規模のIPOを目指す会社も、決して悪いとは思いません。ただ全体的に、もっと大きい試合をするところが増えてくるのがいいと思っています。語弊を恐れずに言うと、もっとアホみたいなアンビション(野望)を掲げる人が増えていいと思うんです。50億円や60億円のIPOではなく、世界で何兆円規模にもなる問題を解決したいんだという人が出てきてほしい。そのためには、それを許容するエコシステムが必要です。

国内のエコシステムには、まだ何が足りないですか。

南場氏: あるところ以降の深い谷を支えるリスクマネーが不十分なんです。ちょっと前はクロスオーナーのファンドも来ていたんですけど、もうちょっとシリーズC、D、Eを支えるような規模感のファンドが増えていいと思うんですね。それはグローバルに存在しているかつチャンスなんです。日本はスタートアップ育成5カ年計画を政府が開始したばかりですし、大臣(西村康稔経産相)も国内のスタートアップ経営者を連れて外遊しています。ユーグレナの出雲社長などが同行していますね。南場氏: そうなんです。

海外マネーを入れる利点は、他にもありますか。南場氏: お金は規模だけでなく質もあり、「世界に目を開かせるクオリティーを持ったお金」というのも重要です。グローバルなお金が日本のスタートアップにもっと目を向け、投資を受けた起業家自身も「東証という市場での小さな上場にとどまってしまう以外に、自分もイーロン・マスクになれるかもしれない」と思ってもらえるような環境になってほしい。

例えばアーリーステージで私たちが出資するじゃないですか。シリーズAぐらいまで我が社は支援して、その先は(次のステージを担うVCに)渡していくわけなんです。そのとき、どれだけ世界のお金を引っ張ってこられるかが重要だと思っています。うちのファンドは3人のマネージングパートナーのうち2人が米国の西海岸に住んで人的つながりがありますし、私自身も自分がこれまで積み上げてきたものをフルに活用します。海外の投資家とのコミュニケーションにすごく時間を使っており、彼

らも最近、「日本にも関心がある」と言ってくれています。だからうちのポートフォリオも紹介しているんですよ。

### 起業家目線で慣行を打破

海外マネーを引っ張ってくる上で、日本全体の課題もありますか。

南場氏: やっぱり日本の法律とか、既存の契約書に書いてある言語とか、彼らは理解に苦しむんですよ。だから米国でトップクラスのVCも、日本への投資実績があるところは少ない。会社を設立する時点で米デラウェア州の法律に合わせておくのが円滑な方法ですが、日本での活動を前提に立ち上げると、事後的に世界から投資可能な状態に調整していくのが多少やっかひになります。過去の書類を確認したときも(機械翻訳サービスの)DeepL(ディープエル)などをいちいち使いますから

日本の会社法も非常にユニークなところがあります。スタートアップに対してフレンドリーにでき上がっている米国の体系と比べると、遅れているところやグレーのまま残された論点もあります。経済産業省は、上場努力義務など日本の慣行についても指摘しています。

南場氏: 上場できるときにやらないとペナルティーを課す事例もありました。非常にナンセンスです。本当にいいんですよ。ただ、今はなくなってしまいました。関連するものでは、起業家自身が(VCなど投資家から)株を買い戻すという条項ですね。私はそういう契約を結ばなかったんですが、他の会社は結構それを結んで、「何年以内に上場しなかったら買い戻す」といった内容でした。それでは全くリスクマネーとは言えないですね。ざっと調べると日本には1000社ぐらいのVCがあって、独立系とCVC(コーポレート・ベンチャーキャピタル)に分類すると、独立系はまだ小さいところが多い。ある程度のサイズになると、CVCの存在感は大きいんですよ。でもCVCの中には、リスクマネーと言っているのに、ほぼ融資ですよという性質のケースも少なくありません。例えば2年以内に上場しなければ個人に買い取りを迫るのは、もはや担保のある融資じゃないですか。ちゃんとCVCももちろんあるんですけど、「自分が担当のときは絶対につぶしたくない」という社内力学が働くケースもあります。本来、ファンドのポートフォリオという概念は「仮に多くの投資先が倒れても、その中の10%なり3%なりが大勝ちすれば、全体でもうかる」というものです。ベンチャーってそういうことじゃないですか。ところが日本はやっぱり、起業家にリスクを負わせすぎるんですよ。本来なら成功しなかったときのリスクを取るの、起業家じゃなくリスクマネーの側なんです。私が起業した20年ちょっと前から今日まで、残念ながらこうした投資慣行が割と変わってなかった。だから声高に私たちも言って、徐々に変えていってほしいところがあるんですよ。日本の教育がコンフォーター(右へならえの習性)を植え付けすぎて、リスク回避に傾きやすいという文化も課題なのですが、変えるべきものがあります。

起業家との契約方法について、デライトは日本のひな型を踏襲せず、ゼロイチで立ち上げたのですか。

南場氏: 早いタイミングから我々のひな型を用意しました。絶対に買い戻し要求などを入れないとかですね。あとなるべくうちがリードインベスターとなりその前の資金調達ラウンドで契約していた投資家がそういう条項を入れたら、なるべくは正すべく働き掛けてきました。そして「なるはや上場努力義務規定」みたいなものも、本当に目を光らせて、「もうとにかくやめよう」と言ってきました。特にデライトの渡辺大(マネージングパートナー)は、米国のスタートアップの契約内容と日本の慣行とのギャップに大変にショックを受けていました。ただ、私たちはルーキーだったから、他のVCと一緒に協調投資をするじゃないですか。「うちだけそういうことを言って、この業界で浮いちゃわかないかな」とか心配はしましたよ。VCは助け合って協調投資するケースがよくありますので、だけど意外に

、うちと付き合ってくれるVCさんはすごく志が高く、同じような問題意識を持ってくださっています。

起業家への買い取り請求条項を廃止した、ANRI(アンリ、東京・港)などですか。

南場氏: ANRIさんもそうですし、そこはあまり問題とならず、いい関係でやらせていただいています、ありがたいことに。

### 「ダメなら次の起業」も重要

米国のエコシステムから、日本に取り入れたいものは他にもありますか。

南場氏: アクハイヤー(買収=acquireと雇用=hireを合体させた造語)の機能が欲しいですね。米国では新規事業がダメになったとき、チームを丸ごと買い取って、債権・債務の整理を肩代わりしてくれる人たちがいるんです。「その代わりに2~3年ほどはうちの会社で仕事をしな」というものです。その企業にリソースがそろっていきると、意外と買収された側のエンジニアが居心地よく感じることもあります。それどころか、そうした人材を幹部に登用することもあります。

一方、日本はどうしてもCVCのケースが目立ってしまうのですが、投資先がダメになっても自分の担当期間につぶしたくない。「企業価値をゼロと報告したら私の責任になるから、何かしら業務を受託しても耐えろ」などと、投資先のスタートアップに要求してしまうのです。起業家というのは、もうどうにも大成功しないモデルをつかんだときは、早く次の事業に行くべきなんです。お金と同じで、「回転」というのが重要な概念だと思います。ところがCVCが投資より社内事情を優先してしまう場合、日本の希少資源である起業家の回転を遅らせてしまうのです。お金の使い方として、非常にもったいない。大企業のCVCはまた課題の多い組織も目立ち、「もっと事業会社はスタートアップのM&Aに力を入れてほしい」(南場氏)と力説(写真: 伊藤菜々子)

スタートアップの資金調達について、もう1問。初期のバリュエーション方法は永遠の課題だと思いますが、どんな計算が理想ですか。

南場氏: どうしても(既存の上場企業を参考にする)類似モデルに頼るのは難しさがあります。もちろん何かを発明してビジネスとして成し遂げるのは本当に困難なので、既に類似のものがあるというのは成功の確率を一定程度は底上げできます。「米国でこの分野が盛り上がりかけてきたから日本でも」といったケースです。でも、スケールとして何千倍になったりはしづらい。もちろん類似モデルも必要ですが、「解決へ」と取り組んでいる課題の大きさはいかほどなのか。ソリューションの提供によって生み出される経済的価値はどれほどか」というところからも、企業価値を考えています。それを達成できるスタートアップなのかどうか、何を見ていますか。

南場氏: 私の場合はかなり、人を見ますね。特にアーリーの段階では、起業家とそのチームの強さを見たほうがいいと思います。私はたまたまですけど、本当に何万人という人を見てきて、新卒採用も中途採用も実施してきました。その嗅覚と判断は、ときに失敗もありましたが一定程度、機能していると思います。そしてデライトのポートフォリオの約半数はディー・エヌ・エー出身者が立ち上げた企業ですから、これまでの仕事ぶりも見えてきました。

日本のスタートアップが世界で飛躍するには、ディープレックも重要です。VC業界は投資家に対し、ファンド存続期間の10年で原資を3倍にして返す相場観があります。一方、ディープレックへの投資については未上場の期間を延ばすべきという声も聞きます。南場氏: ちょうど、この「10年問題」は話題になっています。特にディープレックは、10年でのエグジットが難しい場合もあるんですよ。そこでエクステンション(延長)するか、そもそも一律で10年のデュレーション(期間)を設定することに無理があるのかという議論になっています。最初から、長めの期間を設けるファンドもありますから。これまでのモデルはIT分野での起業を中心に考えていた頃のもののなので、少しずつ調整されていくと思います。以上

# “2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

## 夏目漱石ら男性作家作品から生まれた「作者の手で殺される女」～近代文学がもたらした日本の精神風土への影響とは?

**齋藤美奈子 (文芸評論家)**  
＜青山83期＞ 2022年10月16日 AERA



### 《齋藤美奈子 プロフィール》

1956年新潟市生まれ、日本の文芸評論家。新潟高校83期、成蹊大経済学部卒、フェミニズム系の評論家。

『妊娠小説』で文芸評論家としてデビュー。森鷗外『舞姫』から村上春樹『風の歌を聴け』まで、『望まれない妊娠』のシーンがある作品を取り上げて論じ、近現代日本文学に潜む女性観をあぶり出した。『文章読本さん江』で小林秀雄賞受賞。『紅一点論』のようなサブカルチャー研究や、『実録・男性誌探訪』『戦下のレシピ』など風俗研究色の強い著作もある。

父は新潟大学名誉教授物理学者。妹は、韓国語の翻訳家・齋藤真理子。

◆◆◆◆◆  
齋藤美奈子(さいとう・みなこ)／1956年、新潟県生まれ。文芸評論家。1994年『妊娠小説』でデビュー。2002年『文章読本さん江』で第1回小林秀雄賞受賞。おもな著書に『戦下のレシピ』『名作うしろ読み』『文庫解説ワンダーランド』『日本の同時代小説』などがある(撮影／小山幸祐)

AERAで連載中の「この人のこの本」では、いま読んでおくべき一冊を取り上げ、そこに込めた思いや舞台裏を著者にインタビュー。

日本の近代文学の主人公である青年たちの多くは、恋を告白できずに片思いで終わる。たんに恋が成就しても、ヒロインは難病や事故などで、なぜか死んでしまうのだ。『出世と恋愛 近代文学で読む男と女』の著者である齋藤美奈子さんは「日本の男性作家には恋愛、あるいは大人の女性を書く力がないのでは」と喝破する。近代文学が日本の精神風土にどのような影響を与えたか、『三四郎』『金色夜叉』『不如帰』『野菊の墓』などから読み解いていく。齋藤さんに同書にかける思いを聞いた。

\* \* \*

夏目漱石『三四郎』、森鷗外『青年』、武者小路実篤『友情』——本書に登場するのは近代文学の中でも名高い青春小説、恋愛小説の数々だ。

こうした作品は「大人になって読みかえすと思わぬ発見や面白さがある」と、齋藤美奈子さん(66)は言う。

「古今東西の文学は『出世と恋愛』を大きなテーマとして描いてきました。近代日本の青春小説には、黄金のパターンがあります。主人公は地方から上京してきた青年で、都会的な女性に魅了されるが、振られます」

恋愛が成就するとどうなるか。「恋愛小説にもパターンがあって、主人公には相思相愛の相手がいるが、なんらかの理由で二人の仲はこじれ、彼女は若くして死にます。言いかえれば恋愛に踏みこんだ女は作者の手で殺されるんです」

確かに『野菊の墓』も『不如帰』も、失意のうちにヒロインは死ぬ。たかが小説——と言えるかもしれないが、多くの作品に共通するパターンがあるならば、そこには当時の社会状況や作品を支持した読者の存在を見るべきだろう。

「本で取り上げているのは100年前の小説だから、慣れるまで多少の忍耐力は必要ですね。一人で読むよりも、SNSで作品についてコメントしあうとか読書会をやったほうが面白いかもしれません。ツッコミどころがたくさんある半面、名作として残ってきた作品には強さがあるので、侮れません。『不如帰』と『世界の中心で、愛をさけぶ』が難病ものという共通点があるとか、発見があると思います」

すっかり文庫で見なくなった近代文学だが、青空文庫などネット上で無料公開されている作品も多い。実は、近代文学にアクセスしやすい環境が整っているのだ。

本書には『女工哀史』の著者・細井和喜蔵のプロレタリア青春小説『奴隷』や宮本百合子『伸子』も登場する。二人の作家の作品と他の近代文学との違いも興味深い。「数多く描かれた青春小説、恋愛小説ですが、日中戦争が始まると黄金のパターンは崩れていきます。とくに太平洋戦争の時代になると、国民も巻きこまれる総力戦ですから、出世や恋愛どころではない。戦争が若い人にとってどれだけ残酷か、よくわかります。15年戦争は日本の文化を根こそぎ破壊しました。近年、話題になった吉野源三郎『君たちはどう生きるか』のコペル君は、のちに学徒出陣する世代なんですよ」

では最近では——といえば、「出世や恋愛ははやらない」と齋藤さん。「今の若い人は生きていくだけで大変だから、将来の夢を語れないし、恋愛も非常にしにくいですよ。アニメ作品ですが『君の名は。』のように、お互い入れ替わるとか、並行世界で時間がずれているとか、SF的な仕掛けがあることで、ようやく恋愛が成立する。いずれにしても大人としては若者たちを応援したいですね」

(ライター・矢内裕子)

## (旅する文学) 栃木編 徳川時代の光、近代の影

**齋藤美奈子 (文芸評論家)**  
＜青山83期＞ 2022年6月4日 朝日新聞



### 《齋藤美奈子 プロフィール》

1956年新潟市生、文芸評論家。新潟高校83期、成蹊大卒、フェミニズム系の評論家。

◆◆◆◆◆  
日光杉並木街道。うっそうと茂る中に朝の光が差し込む＝栃木県日光市、全日本写真連盟・田中容之さん撮影



外国人の日本旅行記で、西の京都と同じくらい注目度が高いのはどこだろう。それは東の日光だ。

1878(明治11)年に日本を訪れたイギリス人旅行家イザベラ・バードは『日本奥地紀行』(1885年／高梨健吉訳・平凡社ライブラリー)で、「日光は「日の当たる光輝」を意味する」と書き、男体山を望むこの地の自然とともに、東照宮の威容を社殿の装飾のひとつひとつに至るまで詳細に報告した。

フランス海軍の士官で作家だったピエール・ロチも『日本秋景』(1889年／市川裕見子訳・中央公論新社)で日光に一章をあて、森の中の社殿を「想像を絶する壮麗さ」(おとぎの国のそのよう)と表現した。宇都宮までは鉄道で、その先は人力車で日光に向かったロチは街道の杉並木にも心を奪われ、その木漏れ日をうす暗い教会のステンドグラスから入る光にたとえている。後に各国大使館の別荘が中禅寺湖畔に次々建ったのはこうした旅行記の影響があったかもしれない。

\*

一転、同じ日光が舞台でも、三輪太郎『大黒島(だいこくじま)』(2012年／講談社)は企(たくら)みに満ちた現代小説だ。

語り手の「私」は30代で銀行員を辞め、大学院で学び直して得度。中禅寺湖に浮かぶ島の大黒天堂に僧侶として赴任した……と書いてはみたが、中禅寺湖に大黒島なんて島は存在しない。しかし江戸時代には大奥の、日露戦争後は陸軍参謀本部の庇護(ひご)を受けていたという大黒島の歴史のまことしやかなこと!

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

**(旅する文学) 栃木編**  
**徳川時代の光、近代の影**

**齋藤美奈子(文芸評論家)**

<青山83期> 2022年6月24日 朝日新聞

◆前頁から続く◆

島を訪ねてきた元同僚に(おまえの仲介で神仏の力を借りたい)と懇願された「私」は困惑するが、その先は……。現代人と神仏の関係を問い、日光の歴史にも切りこんだ意欲作。旅行者が見たキラキラな日光とはまた別の世界である。

日光や那須と並んで、近年観光地として人気があるのが巴波(うずま)川の舟運で栄えた栃木市だ。山本有三はこの町の出身。『路傍の石』(1947年/新潮文庫)は明治期のこの町からはじまる物語である。

高等小学校に通う愛川吾一は成績優秀な少年だったが、家計は苦しく(今に見ている、おれはきっと、中学へ行ってみせるぞ)という夢はかないそうもない。そして彼は無謀な行動に出る。友達に見えを張って鉄橋の枕木にぶら下がるのだ。

「進学の件でヤケになったか」と考えた担任の次野先生や地元の名士が学資の援助に動き出すも、頑迷な父は首を縦にふらず、彼は呉服屋へ奉公に行くしかなかった。

じつは戦争で中断を余儀なくされた不運な作品。吾一はこのあと上京して夜学に通うが、彼の成長後の姿は十分に描かれなかった。それでも教育の力を信じた地方都市の人々の姿がここには刻印されている。

栃木は雷が多い県で、宇都宮市には雷都の別名もある。表題に「雷」を冠した立松和平『遠雷』(1980年/河出文庫)は宇都宮市出身の作家による異色の青春小説だ。

舞台はかつての水田地帯。高度経済成長後、住宅団地や工業団地に田畑を売った農家が離農する中、作者が主人公に選んだのは、時代に抗してビニールハウスのトマト栽培に夢をかける23歳の若者だった。

農村の共同体が失われバラバラになる家族。変わりゆく風景と、赤い電球のように実をつけるトマト。クルマを乗り回し、(モーテルいくべ)と見合い相手を誘っちゃう主人公の満夫は、日本文学からめ北関東ボーイの面目躍如。この小説が出たときの衝撃は大きかった。

栃木の近代史を語る上で無視できないのは足尾鉬毒事件である。

荒畑寒村『谷中村滅亡史』(1907年/岩波文庫)は一度は読んで損のない漱石の檄文(げきごん)だ。が、歴史小説として出色なのは、城山三郎の名を一躍知らしめた『辛酸』(1962年/角川文庫)だろう。晩年の田中正造(佐野市出身)の片腕として働いた青年・宗三郎を視点人物に、物語は最後まで谷中村に残った十数戸の闘いをリアルに描く。

足尾鉬毒事件は負の歴史である。しかし、渡良瀬遊水地に谷中村の遺跡を保存する活動は続けられており、国家権力と闘った人々の記録は今も輝きを放つ。近代の光と影が栃木には凝縮されているようだ。

**『実は書評が苦手』**  
**～韓国文学ブームの引率者**

**齋藤真理子(韓国文学翻訳家)**

<新潟市出身> 2023年12月4日 AERA

**《齋藤真理子 プロフィール》**

1960年新潟市生まれ、韓国文学の翻訳家、ライター。(新潟高校ではないが)

父は新潟大学名誉教授物理学者。

姉は文芸評論家・齋藤美奈子 → (青山83期)



明治大学文学部考古学科卒業。1980年から大学のサークルで韓国語を学び始め、1991年からソウル延世大学語学堂に留学。2015年、パク・ミンギョ『カステラ』で第一回日本翻訳大賞受賞[2]。2020年に韓国文学翻訳院の第18回韓国文学翻訳賞文化体育観光部長官賞を受賞。訳書多数。

◆◆◆◆◆  
**齋藤真理子が書評では書けなかった思いを綴った読書エッセイ**

齋藤真理子(さいとう・まりこ) / 1960年、新潟県生まれ。翻訳家、ライター。2015年パク・ミンギョ『カステラ』(ヒョン・ジェフンとの共訳)で第1回日本翻訳大賞。著書に『韓国文学の中心にあるもの』、近刊にくぼたのぞみとの共著『曇る眼鏡を拭きながら』が...

AERAで連載中の「この人のこの本」では、いま読んでおくべき一冊を取り上げ、そこに込めた思いや舞台裏を著者にインタビュー。

『本の葉にぶら下がる』は、『82年生まれ、キム・ジヨン』など、数々の話題作の翻訳を手がける著者である齋藤真理子が綴った、25編の読書エッセイ。漱石と李光洙、後藤明生、永山則夫、オーウェルなど、韓国文学にとどまらない古今の本を取り上げる。文学に刻まれた朝鮮と日本の歴史をたどり、埋もれた詩人や作家に光を当てる。人間が疫病や戦争に向き合ってきた記憶は本の中で読まれる時を待っている一冊となった。齋藤さんに同書にかける思いを聞いた。

\* \* \*  
多様な韓国文学が刊行され、ブームを超えた人気が定着する中で、ひととき信頼を集めているのが翻訳家・齋藤真理子さん(63)だ。

話題となった初の著書『韓国文学の中心にあるもの』に続く本書に登場するのは、韓国文学はもちろん、漫画、フランス文学、詩、漱石、田辺聖子や茨木のり子など、幅広いジャンルの本と作家たちだ。

「私は書評が苦手で、書き終えても満足感がないんです。『十分に紹介もできず、かといって書きたいことも書けていない』と思ってしまふ。読書していると、書評には書けないけれど、自分にはとても印象的な文章が見つかったりするんですよ。その一文で本を読んで良かった、と思えるような。この本は、そうしたきわめて個人的な事柄でできています」



齋藤さんは(一冊の本に他の本の記憶がぞろぞろとぶら下がり、連なり、揺れている。そんな眺めについて書こうと思う)と、綴る。

たとえば本書のはじまりでは、『チポ一家の人々』と高野文子の漫画『黄色い本』のつながりが語られる。本書の装画も手掛けている高野の『黄色い本』は、1970年代と思いき日本の地方都市で、黄色い表紙が印象的な『チポ一家の人々』を夢中になって読む、高校生女子の物語。舞台となっているのは「新潟だ」と、齋藤さんは指摘する。

そうか、あの作品で話されていた雪国の言葉は、新潟のものだったのか。『チポ一家〜』をめぐる連想は、郷静子『れくいえむ』へと続く。この作品にも『チポ一家〜』を読む、二人の少女が登場するからだ。

「自分ひとりだと記憶の底に沈んだままの出来事が、友だちと話していると思い出すことがありますよね。本好きの友人とおしゃべりしていると、『あの本とこの本って似てない?』とか、個人的な文脈について話すでしょう。そういう意味でも、本に書いたのは個人的な内容なんですよ」

こうした連想は結核をめぐる林芙美子と郷静子、いぬいとみこさんに出会ったときのことと、続いていく。「前作で入れられなかった本のことも、書きました。朝鮮人が登場する後藤郁子と茨木のり子の詩について。韓国最高の文学賞に名を残す、李箱のこと。森村桂やマダム・マサコ、森茉莉などについて書いた後半は楽しかったですね」

齋藤さんがとりあげる本のつながりは、星座を見つけるような高揚感がある。「本を関連づけて読むのは、私だけではないでしょう。どんな人にも、その人なりの取り換えがきかない文脈があって、そこに連なる本があるはずなんです。私の本の好みは偏っていて、古い本のことばかり書きましたが、どんなに古い本にも今につながる葉がはさまっているんですよ」

誰でもその人だけの「本の星座」を持っている。自分の人生につながる本が、そこで輝いているだろう。

(ライター・矢内裕子)  
※AERA 2023年12月4日号 矢内裕子



# “2023夏・在校生東京研修レポート(抜粋)”～12ヶ所訪問～

～ 東大(模擬講義舎),財務省,清水建設,JAL,日本IBM,天地人, DNP, 共同通信社, JICA, DeNA, 大塚製薬, 経産省,日立システムズ ～

## 各研修先で 青山OG,OB等にご案内いただきました!

### ◆ JAL・日本航空 ◆

企業理念・フィロソフィーの「人生・仕事の結果＝考え方\*熟慮\*能力」がその人を決めるに感銘。社員がパイロットも含め男女半々に驚き、パイロット・CA以外にも様々な役割で多くの方が旅行者を支え、どれか一つでも欠けてはいけないと理解し、SDGs取組でもてんぷら油などからのSAF燃料など環境への配慮も知りました。また、AI搭載での運用も将来の課題と聞きました。最後に間近にみる実物の飛行機や、スカイミュージアムも大変興味深く、航空業への理解がいつそう進みました。

### ◆ 日本アイビーエム ◆

印象的なことは「どんなにAIが発達しても、主役は人間であることに変わりはない」でした。「AIは人間の代替になるものではなく、人間の能力を拡張するためのものだ」を聞く前は、どこかでAIが人間に取って代わって仕事をすることに恐怖を抱いていたが、今回聞いて、AIと人間の役割分担に過ぎず、人間は人間にしかできない役割に求められていることをやるために思考力を育て、学びを深めていくべきだと感じた。IBM社には「考えよ、良き企業市民たれ、社会とともに」の3理念があり「THINK!」を特に大切にしている。顧客サービスが事業の中心であり、AIを用いた天気予報施設も顧客に対する重要なサービスのひとつだという。

### ◆ 大塚製薬 ◆

製薬に興味があるので、今回は良い話を聞けた。ジェネリックはやらす、モノマネでなく独創的な新薬開発が社の重点方針。理念は創造力と想像力で新薬を開発する。新薬の承認は長い期間を要するもの、その開発秘話など研究の道のりも感じ入った。自身も日常で大塚製薬のポカリスエットにも助けられている。トータルヘルスカンパニーとして健康時も療養時も支えてくれる特色ある製薬会社と知り、私も創業を学びたい気持ちを持った。

### ◆ JICA ; 国際協力機構 ◆

国際協力に興味があり、講師のモザンビークでの経験談で、アパートの警備員の願い事をその時は断るもずっと覚えていたことが衝撃でした。出合いを大切にしたい。私は食糧問題や食品ロスに関心があり、世界の飢餓を救うためJICAで活動したいと思った。JICAの活動と世界の課題について教えていただきました。赴任先の文化を知り尊重し、そして協力する姿勢に感銘を受けました。

### ◆ 財務省 ◆

先輩の佐野美波講師のお話で、財務省は国の予算・税金や通貨の信頼性維持等を所管し日本を支える重要な機関であり、実体験を伺いました。特に予算編成Fでは、各方面に配慮しつつも、背景要因等を論理的に説明し専門家と交渉するために猛勉強が必要で、多くの関係者の想像以上の尽力にも驚きました。少子高齢化に伴う社会保障料負担増と目まぐるしく変わる時代の変遷への対応等の課題。質問にも簡明に答えて頂きました。

### ◆ 経済産業省 ◆

省の目標である「未来の日本を豊かにする」「国益の拡大」に沿って、国内産業の振興に資する政策を立案し実行する。鉱物資源やエネルギー資源の供給に関する行政を所管する。これに沿って、コウディネーター・プロデューサーとなり、政策づくりの当事者となるのが求められる部署である。自分でも今後、課題をとらえてその対案を検討するような仕事をしてみたい。

### ◆ 天地人 ; JAXAのスタートアップ ◆

まさにこれからうなぎ上りで成長してゆくベンチャー企業と混じた。特に心に残ったのは、起業および事業の目的が、人類社会に貢献するというとても大きいもので、実際に各事業が文明を最適化する画期的なものであることだ。

また、テレワークを基本とする業務形態や、ビッグデータの異なる種類の情報を組み合わせた活用法、そして様々な産業の生産性を向上させるという点は、ニュースや教科書で現代の経済に加わりつつある新しい流れとして紹介されているような先進的なもので、その実際を垣間見たことは刺激的だった。これからの時代の人類のすべきことについて、具体的に現実的に体感できたと思う。

将来、世界的な企業の経営に関わりたいと思う私にとって、とても興味深いものでした。専任社員16名で世界中の企業に貢献できているのが様々な努力と創意によるものだと思いました。また、シェアオフィスの理由や、世界でも数少ない技術を持ち、PRをあまりしなくてもよいのも印象的でした。

オフィス見学では、ルールは特にないとの話が心に残った。ルールに縛られないというスタンスがいままでない新事業に取り組み社らしいと思った。宇宙ビッグデータの取り扱いについては、衛星を利用して得たデータを用いて、限られた土地をどう利用してゆけば、現在の暮らしの向上に限らず、未来の環境を良くし、人間や生物の暮らしを守ってゆくことにつながると理解した。

衛星データは、思っていた以上に農業や教育の場面にも利用されており、風力発電の適地を探したり、漏水リスクを測定したりと社会課題解決や暮らしを便利にすることも役立っていることがわかった。さらに月面アスパラ栽培等新しい挑戦も印象的だった。また、テレワーク・兼業・副業等、従来の会社や仕事に対するイメージが変わりました。

### ◆ 大日本印刷 ; DNP ◆

社名から、印刷・出版事業の印象だったが、出版は1割で、9割は創業時からの印刷技術や印刷で得られる情報を芯に開発した精密機器や食パンパッケージさらに車のナビ機能フィルムやICカード等さらには環境負荷低減では、バイオマス資源活用、真空保冷庫等からは、印刷にとどまらずそこから様々なものを創造してゆく技術力を教えられました。

### ◆ ディー・エヌ・エー DeNA ◆

大切なことは、イノベーションと失敗を恐れない、常にベンチャー企業でいよう!。オフィスはフラットな空間で、性別・年齢・勤務年数によらずオープンな雰囲気や、育休取得率は男性でも5割超え、リモートワークも87%に驚いた。事業は創業時のゲームから、スポーツ・カーシェア・メディカルヘルスケア・ライブストリーミング・JOIN(医師間コミュニティ)・Join Triage(救急車の最短経路アプリ)等、IT企業から、AIも使った新規な提案・創造を展開している。社員スタートアップも積極的に支援する。

### ◆ 日立システムズ ◆

人財のもと、多種多様な人材を採用し育てる姿勢と職場に健康測定機器を置きパフォーマンスを破壊できるようなっている。日立グループ収益は家電が4%、ITが20%という。Chat-GPTを使ったFAQ生成サポート開発や、海外での日立鉄道システムの開発サポートを知った。また、フリーアドレス制や在宅勤務、育児休暇制など、勤務環境の配慮なども印象に残った。

### ◆ 共同通信社 ◆

新潟日報を毎日読みく共同の文字をよく見かけていたが、その記事が作られる場所を実際に見学し感動した。部署毎に記事・写真・図表なども含め、内外の記事を作成している。また取材は記者によって様々だが、作り手として大切なことは「記事」であると強調する。海外の支部も多く、外国人の方も多く携わり、国外のニュース記事も多く紹介している。毎日読む記事がこうして作られていることに気付いた。印象的だったのは、ニュースをただ伝えるだけでなく、問題を深く根まで掘り起こし、そしてそれを世に問いかけるのが仕事・・・という言葉が印象に残った。ニュースは情報としての価値に留まらず、社会が何かしらの行動を起こすきっかけとしての価値ももたらすのだと感じた。

### ◆ 清水建設 ◆

建設業には29種類あるというが、清水建設のようなゼネコンは、企画・設計・施工・保守管理の全てを担うと知った。自社ビルでの免振設計や大規模模型製作でのインフォームド・コンセント等も印象的だった。また、建設においては、免振も含め安全環境・伝統なども加味し、実験棟での検証・実験・改善も常に綿密に準備実行していることがわかった。また、環境素材の探索・導入等も印象的だった。



清水建設



共同印刷



DeNA

### ◆ 訪問先企業名と各ご案内者 ◆

敬称略;(数字)卒回。(一)青山以外。  
 <赤下線=新規> ..名;参加者数  
 <2023.8.2(火)午前>

- ・財務省 ; 佐野美波(102回) 40名
- ・清水建設(株); 吉井正行(86回) 40名
- ・JAL(株) ; 岡村信之(92回) 20名
- ・日本IBM(株); 坪井俊樹(90回) 30名
- ・(株)天地人 ; 青木愛子(一) 20名
- ・DNP(株) ; 五十嵐 哲(一) 10名

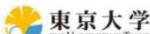
<2023.8.2(火)午後>

- ・共同通信社; 由藤庸二郎(87回) 40名
- ・JICA ; 菅原 富美(一) 30名
- ・DeNA(株); 樋口 裕子(一) 10名
- ・大塚製薬(株); 平林裕彦(一) 30名
- ・経済産業省; 紫竹 貴司(119回) 40名
- ・日立システムズ; 鈴木 強(一) 20名

# “2023夏・在校生東京研修レポート” ～東大模擬講義・OB対話～

～ 東大(模擬講義含),財務省,清水建設,JAL,日本IBM,天地人, DNP, 共同通信社, JICA, DeNA, 大塚製薬, 経産省, 日立システムズ ～

## ◆ 東大模擬講義 ◆



- ・生物学; 武田洋幸 教授;
- ・地震学; 吉田真吾 教授;
- ・防災情報学; 関谷直也 准教授;



## ◆ 東大模擬講義 ～ 感想文A ◆

先日は貴重な御講義と校舎内の見学をありがとうございました。東京へ行くのは2度目で赤門も見たこともなく全ては新鮮な経験でした。吉田先生の地震の講義は、地震に興味があったので、湧くわくして聴きました。地震はプレートの沈降の反動で起きるだけでなく南アルプスの金鉱山では採掘で起こったりもまた乾湿の違いで波に伝達速度が変わる等不思議な現象も学びました。世界の現地にも出かけ研究しているとのこと。関谷先生は高校時に弓道部の初代部長だったとのこと(私も弓道部でインターハイに出場を目指したい)。講義では、災害そのものではなく、災害時の人々の心理に焦点を当てた研究とのこと、コロナ禍が始まった時に、広まった誤情報や噂が、不安などの共通心理が作用しているときに広がるのと知ってとても納得しました。武田先生の講義では、人間も魚類も発達の途中までは8割が同じで、形もものすごく似ていることを知りました。魚などから進化して、人間が誕生した時Jつを知ることができとても興味深かったです。本当に貴重な経験をいただきありがとうございました。

## ◆ 東大模擬講義 ～ 感想文B ◆

貴重なお時間の中で私達のために講義をいただきありがとうございました。各先生方のそれぞれの興味・関心を深く掘り下げる熱意と楽しさが伝わる講義でした。吉田先生の地震学では、地震前に電磁波の変動が生じているのではとの疑問のもと、海外も含めて自作アンテナでの実験や、圧力で地震の状態を再現してみたりとの探求を。関谷先生の災害心理の講義では、地震や災害時の心理影響等を学びました。60年前の新潟地震が災害事象の基礎につながったことにあらためて心を新たにしました。武田先生の生物学講義では、受精卵からの成長途中までは人間も含む生物でほぼ同じに驚きました。実験し易いもので、伸ばすと2mにもなるDNAの折り畳みの法則の解明に感動しました。お三方のお話で、大きな枠組みとそこから専門的な分野をフォーカスし、また外国の研究者とも関わる必要性にも感銘しました。

## ◆ 東大模擬講義 ～ 感想文C ◆

講義は専門的な内容でしたが、高校生にも分かるよう丁寧に説明していただいた。それぞれ専門的な研究内容だったが、高校での広く浅くな部分から、深く狭く探求し全体像や普遍性を解明することが大学での研究の魅力であることを教わった。

吉田教授の地震学では、地震と電磁波変化の関係探索や石英の圧電効果にも驚く。さらに手を動かして自作の実験器具での研究にも学んだ。

関谷先生の災害行動心理では、過大視の偏見と正常視の偏見なる言葉は、災害に限らずSNS等を通じた噂・流言が拡散し易いことから、日常でも言えることと感じた。半世紀以上前の新潟地震が防災対策等の基礎をつくり、また災害中継の始まりだったことも知り、新潟に居ながらも震災の詳細を知らぬことに気づき、災害史に興味を持った。

武田先生の生物学では、遺伝子レベルでは人間も魚類も8割方は同じで、ゲノム・DNAの折り畳み方にも違いはないことに本当に驚く。そして、研究は常に世界とつながっており、論文として世代を越えて受け継がれ、研究内容はいつか必ず役に立つとの言葉は最も印象的でした。今日のご講義、まことにありがとうございました。

\*\*\*\*\*



吉田教授 関谷准教授 武田教授

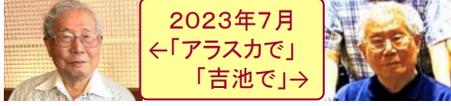


## ◆ 東大青山会との座談会 ◆



「追想：終戦から日本に辿りつくまで(満州引き揚げ)」連載・第2回(全3回)～星満(64期)

二つの祖国～満州から新潟へ  
“星満”<青山64期> 2023.7 寄稿



<<満州国とハルビン>> 解説

「極東のパリ」。中国東北部の街ハルビンは、そう呼ばれていた。日本が謀略で打ち立てた満州国の時代、目抜き通りに洋館が並ぶ街。ハルビンは、もとは革命前の帝政ロシアがいち早く進出し、中東(東清)鉄道の拠点として開発した街だった。  
\*\*\*\*\*

<<本文>> 第1回から続き

6) アメリカの決定によって、  
在満日本人の引揚げが決まった

当時、国府軍と八路軍の境界線は、第2松花江(スンガリーと呼ばれていたハルビン市内の松花江とは別物)であり、この河を渡るまでは八路軍の役割、その先は国府軍が受け持つことになっていた。その境界線に臨時の非戦闘地帯を設け、その間を引揚げ者自身が歩いて超えること。その後は、国府軍に引き渡され、葫蘆島までの途轍もない遠距離を移動し、そこで日本からの引揚げ船に乗船させる。上記NHK報道によると、結局、葫蘆島に辿り着いた日本人の数は120万人。途中で死亡や脱落したのは約28万人で、南京大虐殺60万人(嘘でしょ?)並みの途方もない犠牲者が出たことになる。この数には、ロシア軍や反日中国人による殺害人数は含まれておらず、それを含めると、歴史的にも大変な数の犠牲者が出たことになる。しかし敗戦国の哀しさで、殆ど報道されず、現在の日本人の殆どは知らない。現在では、数人の死者が出ただけでも大騒ぎするにも関わらずである。なお米国の計画では、全在満日本人が引揚げ対象だった筈だが、中国(蒋介石)政府、共産政府、ソ連の3者で、有効な人材の奪い合い(戦争賠償として)が始まり、貴重な人達が相当数、日本帰国が叶わなかったそうだ。

7) 引揚げが決まった

引き揚げが間近に迫った昭和21年8月の或日、例の僕達の学校で卒業式が開かれた。これは本当の卒業ではなく、もう引揚げで解散に成ったから。だから僕達は「君が代」も「蛍の光」も心から歌った。記念品の授与も終わって皆と別れる時、一寸悲しかった。一生もう会えないのかも知れない。仲良しの友達から厚くて面白い童話(アラビアンナイト。初めて見た)の本を買った。然しその本は今、

もう満州の土と化しているだろう。帰る途中、余り重くて新京で捨ててしまったのだ。僕は持って帰る物を調べた。まず記念の写真を20枚位(大部分雨にやられて、今は幾らも残っていない。)衣服、食糧、僕はその時現代文学全集を20冊位持っていたが(子供に解る物を集めた本で、一冊でも持って来たかったと思う)重くて一冊も持って来られなかった。これを選んでみたりあれを選んだりして(その時の僕は何でも持って行きたい気持ちで一杯だった。)やっと少しばかりの荷物を決めた時、実に嫌な気がした。いっそももない方がどんなにせいせいしただろう。

9月5日、その日は朝の3時頃に目が覚めた。母や姉はもう起きて暗い蠟燭の光(電気は終戦直後に停止)で握り飯や持って行く物をリュックに詰めていた。僕は急いで跳び起きると姉は「まだ早いから寝ていなさい。」と、云ったが僕は緊張してそれどころではなかった。「日本へ帰れる。」嬉しくて堪らないのだ。今考えるとせめて最後の別れに長年見慣れたスンガリー(松花江)の流れ、キタイスカヤの大通り、寺院、公園、学校等をもう一度よく見直して来たかったと思う。朝日の昇る5時頃にはもうすっかり仕度が済み、僕達子供はこれから帰る日本の事について話した。母は近所の中国人が別れに来たのに対応していた。その時「無蓋車に乗ると目に埃が入るからこれを着けて。」と航空眼鏡を三つ呉れた。外には、もう皆集まって出発するのを待っている。荷馬車を雇って荷物や子供を乗せていると野口先生(兄の小学校当時の先生)が見送りに来られた。先生は豪傑と称され、飽くまで満州に残るそうだ。「出発」先頭が声を掛けると馬車が動き出した。僕は子供なので馬車に揺られ良い気持ちになっている。

中国人は往来へ出て物珍しげにぼかんと見送っていた。住み慣れた赤煉瓦建の僕の家が段々と小さくなって行く。僕は小さい声で「さようなら」と別れを告げた。馬車はハルピン駅へ行かず埠末の荷物駅に向かった。そこへ着くと先ず荷物の検査である。僕達は此れを大変嫌っていた。何時も新聞(八路軍発行)では、握り飯の中から純金が出て来た。石罅の中から出て来た、など書かれて、益々検査が厳しくなって来たらしいのである。金や宝石を持っていると、銃殺だそう。或時は布団の中にピストルを忍ばせていたなどという豪気なものもあった(結果は如何成ったか知らない)。僕達を調べた中国人の女性は割合簡単に調べた。それから1時間待って汽車に乗る。無蓋車(屋根無し貨車)と覚悟していたのに、屋根付き郵便車だ。「パーロ(八路軍)は親切だな」と感じた(引揚げ列車は無蓋車と報道されていた)。30分程して汽車は動いて直ぐ止まった。ここはハルビン郊外である。大人に聞くと三日間此処に止まっているそうである。仕方無く外に出ると向こうに泥で作った汚らしい家が並ぶ満人部落が見えた。

8) 引揚げ、第二松花江まで

朝目が覚めると非常にすがすがしい。矢張り街より空気が良いなと思って散歩に出る。何時の間に来たか、周りは貨車に囲まれていた。その連結箇処に向うの部落の中国人が

物売るために来る積りが渡っていると(注。中国人は、抜け目なく直ぐ物売りに来る。引揚げ中も肉饅頭を買って食べた)、見張りの兵隊にちよいと尻を突かれて狼狽している。写真機があると面白いポーズが撮れたのと思い乍ら又向こうへ行く。すらっと廻ると友達の顔も相当見えた。昨日の残りの握り飯で朝食を済ませ、友達を誘って広い満州の平野を思う存分駆け回って遊んだ。

今日は、三日目で愈々出発である。午後の5時に動くので余り騒がないで温和しく汽車の中で遊ぶことにした。「ポーッ」汽笛が勇ましく鳴り渡り汽車は少しずつ動き出した。速力は段々速くなる。僕は窓から外の景色を見ながら夕食を食べた。外は始め広い野原で茶畑だったが直ぐ三米位の土手になった。母が「明日、第二松花江に着くと長く歩かなきゃならないから今の内に寝ておきなさい。」と云ったので目を瞑った。がやがやと辺りが騒がしくなったので目が覚めた。「第二松花江に着いたから降りるんですよ。」と、母が云ったので慌てて外に出る。まだ暗いが時間は4時頃だ。

「この駅は相当大きいな。」と見ているとプラットフォームの上に掛けてある板を渡って、大勢のクリー(注。苦力。力仕事を受ける中国人労働者)がこちらへやって来る。八路軍が彼等を雇ってくれたのだ。僕の家にも一人来て呉れたのでほっとした(支払いは当然引揚げ者本人)。1時間もするとほのぼのと朝日が昇って来た。さあ出発である。クリーは軽々と僕達のリュックを三つ担ぎ上げて平気な顔している。僕は大きな雑のうをさげた。段々日が昇って来る。

「こんな旅は楽だ」など言い合っている内に、辺りはすっかり日光に包まれていた。僕達は丁度土手の上を歩いている。下は家畜の放牧場で遙か向こうはどっしりとした山が聳えていて僕達を楽しませた。暫く行くと今度は砂の道だ。それでもクリーがいた間はまだ良かった。1キロばかり行くと八路軍の兵士が帰えしてしまっ。行けども、行けども砂又砂。背中の荷物は僕を圧迫して来る。この荷物を捨てたらどんなに楽になるだろう。(引揚げ者は八路軍及び国府軍の管轄にあったが、途中の食料や経費は、引揚者本人負担で多量の食料が必要。勢い荷物が大きく成らざるを得なかった。後日食料以外のものは、殆ど捨てた。漸く食事が出たのは、奉天に着いてからで、日本人が食べたことのない高粱飯を始めて食べた)。「何くそ」と思って又歩き出した。凡そ二里も行くと先頭が休んでいる。ほっとすると気が緩んで涙が出て来た。母は少しばかり乾パンと三つ繋ぎの指程のカルパス(ソーセージのこと、ロシア語)をくれた。それを食べると直ぐに出発だ。またさつきと同じような道が続く。暫くすると道が固くなって来て間もなく「第二松花江」の沿岸に出た。そこから船で渡して呉れるので順番を待ちながら休んでいると、「日本の皆さん。どうか第三次世界大戦には参加しないで下さい」と行き成り大きな声でしたのでその方を見ると八路軍の兵士がマイクに囁り付けて放送していた。そんなのを聞き乍ら時間を潰していると先頭が立ち上がったので、僕は慌てて立ち上がった。船は大きな筏(いかだ)で楽に30人は乗れる。

「追想：終戦から日本に辿りつくまで(満州引き揚げ)」連載・第2回(全3回)～星満(64期)

二つの祖国～満州から新潟へ

“星満”<青山68期> 2023.7 寄稿



ハルビン：ロシア様式教会と百貨店

「前頁から続く」

河は飽くまでゆっくりで悠々と流れている。僕の性格と正反対だ(当時の私は、親に落ち着きが無いと言われ、自分でもそう思っていた)。水は黄色に濁っている。巾はスガリーと略同じ位だろう。ふと向うを見ると大きな鉄橋がもの見事に落ちている。国共戦争の結果だ。何故戦争をしなければ成らないのか。僕は今度の戦争で嫌やと云う程味わされている。戦争は多くの人を不幸にした。大人はそれでも懲りないのか再軍備、再軍備(注.昭和27年。自衛隊の前身、警察予備隊が結成された)と騒いでいる。世界の人々が皆子供の様な気持ちに返って、戦争の費用を平和の為に使ったとしたら世界はどれ程幸福になるだろう。やがて筏は岸に着いた。こら辺は満人独特の部落で煉瓦を焼いている青白い煙がすーっと一本、空に延びていた。僕達が通って行くと、豚や家鴨がちよちよちよ付いて来る。家畜に迄興味を持たれる程、異様な集団だったらしい。しつと追うと立ち止まって、珍しげに見ている。腹が立つような可笑しいような妙な気持ちが腹の底から湧いて来て自然苦笑が浮かんだ。そこから、何キロ歩いたか良く判らない。兎に角1日中砂の道を重い荷物を背負って歩いた。この時、多くの病人や老人が捨てられた。頼むから捨てて行つてと言うのを目撃した。

9) 引揚げ、八路軍から国府軍へ

そこを通り過ぎ、余り大きくない山を越すと直ぐ下に国府軍(政府軍)の陣があった。漸く国共占領地の境界を越えたのだ。今度は政府軍に引き渡されるのである。小高い丘の上に歩哨が二人立っていた。そこで又荷物の検査をされ、直ぐに噂に聞いていた無蓋車に乗せられた。そこから外を眺めていると数人の中国人が籠を幾つかぶら下げ、日本人に何か売りつけようとして来た。実はここで肉饅頭を買って食べた。中に人間の毛が入っていた！もしかして、日本人の殺戮された死体？！もしかして、私は日本人の死体を食べたかも？ そう考えると、今でもぞつとす。現実上、そのような事実が多かったことが伝えられている。

兵隊が巡って来ると彼等は素早く逃げた。汽車が動き出したのは夕日が沈んで1時間程してからだった。毛布に包まれているも何となく寒い。空は星もなく暗い雨雲に覆われていた。「降るかな。」と思いつつ空を見ている。寝ようと思っても眠れない。その筈だ。一つの貨車に30家族もぎっしりと詰め込んでいるので座っているのが精一杯である。少しうとうとした時ポツンと水があった。「雨だ。」さあ大変。満州の雨は中々

降らないが一度降ると忽ち豪雨になって襲って来る。まごまごしていると何から何までずぶ濡れである。ものの五分も経たないうちに、凄い土砂降りとなって来て、その上汽車は止まってしまった。向うの家から洩れる蠟燭の灯が目にはちかちか痛む。雨は明け方まで降り続いた。

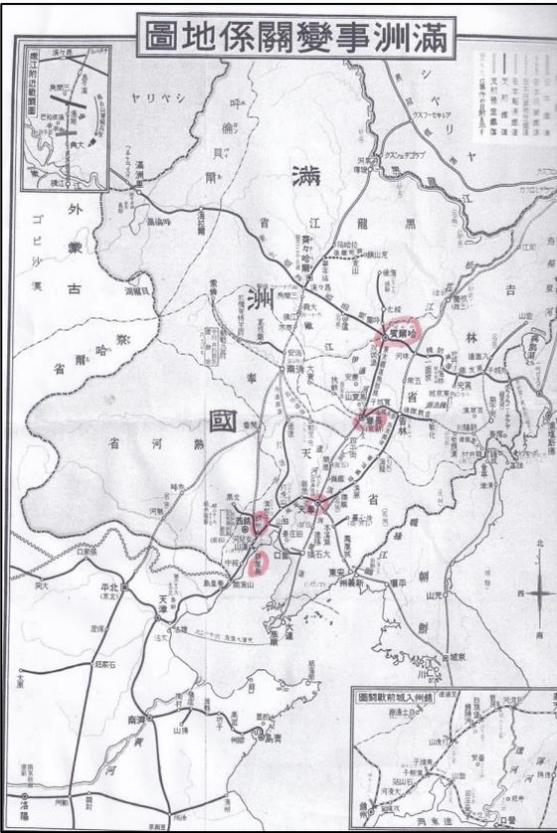
僕達は寝るどころの騒ぎでなく、小さな布を頭に被せて(そんなものがこの豪雨に何の役にたとう)一晩中立ち通して居た。足の下にも水が溜まって、着ている物は勿論、着替え迄ぐしょ濡れとなった。明け方の寒い中を濡れた服を着て、寒さに震えていたのは我々が憐れな姿だった。僕はこの時程雨を恨めしく思ったことはなかった。

10) 引揚げ、新京(現長春)へ

汽車は日が全く昇り切ってから動き出した。そして1時間も経たない内に新京に到着した。ここはかつて満州の首都であった。(注.後日ここでこの研究所で、エンジン技術指導をするなど、想像も付かなか

ったが)その美しかった駅も今では荒れ果て、憐れな姿を横たえている。戦争(国共戦争)という悪魔の為に・・・(注.満州の戦争被害は、主として国共戦争による。ソ連の殺戮は酷かったが、街中での実戦は殆どしていない。日本も満州での破壊はしていない)。暫くすると前の貨車から「新京で下車するから仕度をせよ」と云う伝令が廻って来た。それを聞いて一寸がっかりした。運が良いと新京も奉天も素通りして、真直ぐ錦州へ行く(注.最大の課題は、葫蘆島での船待ち。日本からの配船は少なく、引揚者は途中の街々で順番待ちを強要された)。錦州では種々の検査や手続きが必要で、必ず5日から20日位の滞在が必要である。「良いさ、良いさ。新京で降りれば奉天で降りなくても、良いから。」など諦めの言葉も耳に入って来る。しかし、この時降ろされたのは却って良かったかも知れない。若し降りなかったら、ずぶ濡れの状態で、昼夜無蓋車に揺られたら病気を併発した者も出ただろう。

汽車から降りると団長は駅の近くの大きな広場(元公園?)に、皆を集め「收容所はまだ開かないから15時まで此処にいて下さい。」と言った。今8時だから7時間ある。大人はその間に着物を乾かしたり旅の疲れを休めたりしていたが、僕達子供は「駆逐水雷」(注.当時の戦争ごっこのような遊び)や「パッタ押え」などで大童だった。15時に市内に入ったが随分酷いものである。駅から1キロばかりの間は満足な家が軒もない。みんな天井が落ちていたり壁が破れていたりしている。だが中央の辺りは相当復興していて電車が動いていた。收容所は郊外の近くにあつて場所は良かったが矢張り戦争にやられたのか、床がめくれていたり壁が剥がれていて一寸物騒だった。それに周囲1キロ四方に縄で封鎖されているのは嫌な感じだった。此処は虫が沢山



いる。僕達が夜時たま外へ出ると、月の光に明るく静かに照らされた草むらの中でキリギリスやコオロギが良い声を出して慰めてくれた。ここで僕達の日課は相変わらず虫を追掛けたり、鬼ごっこをしたりする事だった。

11) 匪賊の襲来、奉天(現瀋陽)へ

それから5日経った今日、新京出発の日である。この間の道を通して例の無蓋車に乗せられて直ぐに出発した。までは良かったが30分動いて1時間停まり、1時間動いて2時間停まると云った具合。その内に日が暮れて、汽車は停車したまま、今度は何時迄も動かない。もう夜中の2時頃だ。うとうとしていると突然「わあ一つ」と云う声。それと同時に「匪賊に襲われましたから女、子供は荷物の下に、男は防ぐ用意して下さい。」と云う声が聞こえて来た。各車両には一人ずつ、国府軍兵士が乗っていたが、実はこれが怪しい。正規軍兵士が居るのに、襲って来る匪賊などある筈がない。当時の国府軍は現在の台湾で、日本最大の友好国であるが、当時は直前まで、日本と死に物狂いで戦って居た事実がある。従って各兵士は八路軍と異なり、日本人に友好的では無く、扱ひも八路軍に比べ、何かと不自然さを感じた。

その匪賊の正体も所謂賊では無く、日本人に恨みを持つ近くの農民たちで、鎌や鍬などを持って略奪に来たのである。はっきり言うと兵士とグルだと思ふ。従って、我々の場合一回こっきりで済んだが、睨まれると何度でも襲われ、なげなしの金や物を奪われることになる。命まで取ることは無くても、非常に恐ろしかった。なお、列車の動きが不自然だったのも、襲撃場所に誘導するためでは無かったか？ その後のことは良く判らない。

「以上、全3回の第2回分」次回お楽しみに。

～ 自家出版本 紹介 ～ “ある青山90期生の人生”

編集：本間大樹(90期)  
構成：工藤義夫(74期)事務局

◆ 自家出版本 紹介 ◆  
「通りすがりの僕という障害者」  
西村 俊滋 (青山90期)  
《ペンネーム：北野一樹》著

◆ はじめに ◆  
90期の西村 俊滋 君 (ペンネーム；北野一樹)は、53歳のときに脳腫瘍を患い右半身麻痺の障害を負っています。  
2023年10月8日、新潟にて90期の同期会が開催され、156名も集まりましたが、西村君も久しぶりに元気な姿を見せてくれ、最近右手が不自由な中にも、「通りすがりの僕という障害者」という500ページ超の大作を執筆・自費出版したことを話してくれました。  
<記；90期・木村和人>

健全な身体、仕事、家族…  
全てを失って初めて  
見た人生の輝きとは？

人生には得てして想定外の事が起きるものだ。著者は53歳で脳腫瘍を患い、手術は一応成功したものの、右半身麻痺と高次脳機能障害という後遺症が残ってしまった。企業の中間管理職として順調なキャリアを積み、2人の子どもを持ち、ごく普通の家庭を持っていた著者に突然襲った悲劇。しかも勤めていた会社からは障害を理由に一方的に解雇され、妻からは離婚を迫られ……。50代半ばにして自由な身体も、仕事も、そして家庭も、すべてを一気に失ってしまう。どん底の闇の中に突き落とされたら誰もが思う運命の中で、著者が見た世界とは？

病院での医師や看護師たちとの関係、介護施設の職員や福祉関係の人たちとのやり取り、同じ境遇をたくましく生きる障害を持った人たちとの交流……。健全な時には見いだせなかった人々の温かさや優しいまなざしがそこにあった。壮絶な喪失から、著者は人生の本当の輝きと生きる喜びを知る。不自由な左手一本でパソコンに打ち込んだ文字は約25万字！ 400字詰め原稿用紙700枚の渾身の実体験小説。その文体は驚くほど明るく透明だ。長いストーリーを読み切ったとき、あなたもきっと著者が見た人生の光と、吹き渡る爽やかな風を感じるに違いない。



# 通りすがりの僕という障害者

北野一樹

失うことが新たな生につながる

53歳で脳腫瘍を患い、右半身麻痺の重度障害に。健康な体、仕事、家族……すべてを失った著者が手にした、本当の人生の輝きと喜びとは？

想定外の喪失にどう対処するか？どう向き合うか？

■ 販売はAmazonのみです  
・ペーパーバック(564頁)3520円(税込) ※分冊；上下巻は各1冊1870円(税込)  
・Kindle版/1250円(税込み) ※Kindle Unlimited加入者は無料

## 《 本人コメント 》

4年という歳月をかけて少しずつ書き続け、気がついたら500ページを超える小説になっていました。自費出版ではありますが、皆さんの前にこうして作品として発表できるなど、想像していませんでした。ぜひ青山同窓会の皆さんに読んでいただけたらありがたいです。よろしくお願い致します。  
(90期・西村俊滋)

## 《 本書の内容 》

- 第1章 突然突きつけられた脳腫瘍という現実
- 第2章 船橋リハ病院への入院と通院
- 第3章 障害年金と引き続き西新潟中央病院へ
- 第4章 離婚届を出し、新生活がスタートした！
- 第5章 さあ、就労継続支援A型へ進むぞ！
- 第6章 次はデイサービスとグループホームだ！

## 【著者略歴】北野一樹 (ペンネーム)

1963年新潟市生まれ。79年4月新潟県立新潟高校入学、82年4月東北大学理学部化学科入学。88年3月同大学同学部卒業後、東京都内の企業に就職する。同社の中間管理職として仕事をこなすも、2016年年末に脳腫瘍と診断され、17年1月東京慈恵医科大学付属病院にて手術。成功するものの後遺障害が残り、船橋市立リハビリテーション病院に入院。その後退社し、19年1月に離婚。その後は新潟市西区の実家で両親と同居しながら、地域活動支援センターや就労継続支援A型などで仕事をし、現在は新潟市のグループホームに入居中。

## 【 登録情報 】

ASIN : B0CK3M5GQB  
出版社 : Independently published  
発売日 : 2023/10/3  
ペーパーバック : 564ページ  
ISBN-13 : 979-8861880039

◆2023年度～上・下期分

\* R4.4.1～R5.3.31(上期) 葉書・e-mail / 会費振込用紙等に記載のメッセージ等\*

61回-長沼博樹/ 同期の卒業生は320余人、だげと今、東京青山同窓会員は12名です。残りの方はどうしているのでしょうか。男の平均寿命は81歳、女性のそれは86歳の長が自ら尋ねています。どうしてか? 今年は女子の方が多めのですね。全観見を驚かしました。当時初めて女子が入学し、因みに7名でした。至聖館校舎として建てて入れても10名もなかったんです。

62回-高田正男/ 横矢たけしの低い旧体書館でスケートボールの練習を思い出します。後輩の皆様のますますのご活躍を願う思いの厚さを祈ります。

会報72号きました。ありがとうございます。いつも楽しい編集で一気に寄ります。7月8日の総会出席しますのでよろしくお願ひします。

67回-三浦 隆 祐/ 新潟通達

68回-上村 謙子/ 休職中知り振の女性達と映画観賞しました。中国とある山口宗さん、私の母がハルピンで映画の撮影しているのを見た話してました。昭和11年頃とでも美しく話してました。私の同期は昭和9年〜28年まで中国にいました。

69回-渡邊 謙一/ 住所不明

70回-三浦 隆 祐/ 工務課より大東お世話になっております。総会& 教団会開催のお知らせにつきまして、参加させて頂きたくて差し上げさせていただきます。

71回-堀 清志/ 新入と共にお楽しみを大事にしたいです。工事 事務局長様 お疲れ様。漸く6月からの東京青山同窓会が開催されますね。普書されてお待ちしていますので、必ず参加致します。その前の幹事会がありましたら、ご連絡をお願い致します。東京青山同窓会倶楽部4月24日(吉)迄で開催。

74回-解島和郎/ 住所不明

74回-上野 隆/ 幹事会は参加。総会は欠席です。

74回-大東 謙一/ 総会参加。昨年12月新潟に帰った際、佐藤信徳様がキーボードによる写真新潟県で見た津川の方で新しい道路が開通したの由。

74回-高見 浩/ いつも同窓会のお仕事ご苦労さまです。今回ご案内です。アールでの取材で残念ながら出席できません。今後よろしくお願ひいたします。

74回-若林雄基/ 工務課まで 持ってまいりました! ! 機会もろろん参加させていただきます。

76回-長北 亨/ ようやくコロナ感染も取まってまいりました。久しぶりに同窓会の集まりにお会いできて半年来福していています。6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、総会、懇話会に出席を希望しています。よろしくお願ひいたします。

76回-佐藤 晃/ 出席予定。お願ひ致します。

79回-川上康夫/ 出席予定です。よろしくお願ひします。なお、会費は事前に振込して下して頂いて、お支払いいたします。6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、総会、懇話会に出席を希望しています。よろしくお願ひいたします。

82回-日下部朋子/ 東京青山、再始動! 参加します! 宜しくお願いいたします。

82回-松本 洋/ 総会に参加したいと思います。盛会をお祈りします。

84回-佐野 謙二/ 既に予定あり、残念ながら欠席です。盛会をお祈りします。

84回-飯塚理子/ 工務課まで案内ありがとうございます。是非参加させて頂きたくて差し上げさせていただきます。よろしくお願ひします。

84回-小島秀子/ 同窓会総会参加させていただきます。よろしくお願ひします。

84回-馬場 孝/ 休職中知り振の女性達と映画観賞しました。中国とある山口宗さん、私の母がハルピンで映画の撮影しているのを見た話してました。昭和11年頃とでも美しく話してました。私の同期は昭和9年〜28年まで中国にいました。

84回-高橋晴夫/ 84期の野球部主幹。1度も参加したことがありませんが、希望。

84回-野口俊介/ ご無沙汰です。4年ぶりの開催! 待ちに待っており喜んで参加いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

84回-星野 謙二/ 幹事会お疲れ様です。総会・教団会に参加致します。現在下記の通り2足の草鞋状態です。(新会社の後者が本来) 日揮ローレル株主会社 / 東千カネビル本部 / 期間

84回-星野 謙二/ 幹事会お疲れ様です。総会・教団会に参加致します。現在下記の通り2足の草鞋状態です。(新会社の後者が本来) 日揮ローレル株主会社 / 東千カネビル本部 / 期間

88回-今住 一郎/ 出席予定。宜しくお願い致します。

89回-山田敏昭/ お疲れ様です。今年こそ、開催ですね。おめでとうございます。私事、3/28付で東京に戻ることになりました。今後とも宜しくお願い致します。個人的には、あと1年福岡にいたかったのですが、総会で、戻らないと予定が分りませんでした。出来るだけ参加したいと思っています。

89回-星井利博/ 上京の予定がありますので、総会に参加させていただきます。

90回-池田美津子/ 久しぶりの開催、嬉しいですね。ちょうどその日に予定が入っています。欠席です。また、次回お知らせください。

90回-高橋 正幸/ 今年も参加させていただきます。

90回-坪井俊樹/ 総会参加予定です。宜しくお願い致します。

90回-渡邊 謙一/ いろいろ総会再開です。90期のメンバーも具体的に動きはじめたと行かれます。宜しくお願い致します。

92回-近藤善隆(新潟高校校長)/ 学友から、小学校長と、旧3年部長及び、私に感謝の言葉を頂戴致しまして。7月の総会には、私の他4名参加希望者がおりたくので連絡致します。

93回-伊藤 隆/ 東京青山同窓会入会希望です。7月の総会にも出席希望です。

93回-土屋 泰彦/ 友人に総会に誘われました。よろしくお願ひします。

93回-村岡 謙一/ 住所不明

93回-丸山 隆/ 今年も参加いたします。残念ながら総会は欠席します。工事 事務局長様 お疲れ様です。ようやう4年ぶりの東京青山同窓会が開催されますね。普書されてお待ちしていますので、必ず参加致します。その前の幹事会がありましたら、ご連絡をお願い致します。東京青山同窓会倶楽部4月24日(吉)迄で開催予定です。

94回-藤沢健司/ ごぶさたしております。出席予定。よろしくお願ひいたします。

94回-野崎雅也/ いつも大東お世話になっております! またご案内ありがとうございます。参加できよう予定調整します。

94回-吉原直也/ 出席を希望いたします。どうぞよろしくお願ひ致します。

101回-星野 謙二/ 後輩のみなさん、総会に参加させていただきます。

101回-後藤 卓/ ご無沙汰しています。総会参加致したくお願ひいたします。

102回-関谷直也/ 東大大学院理学部情報学総合情報研究センター准教授です。新潟高校生の夏季研修で東大での担当になりました。総会、参加いたします。

104回-佐藤 晃/ 案内ありがとうございます。参加費振込みます。

106回-三田和弘/ 同窓会HPで総会の内容を拝見。参加を考慮しております。

110回-柳道ごう/ 所帯にて欠席します。

115回-林 貴子/ 住所不明

117回-水間和紀/ 住所不明

117回-山本 浩二/ 工務課までお世話になっております。いつもお疲れさまです。ご連絡ありがとうございます。以前お電話でのご連絡と、妹と一緒に参加を考えています。128回のお田楽(わたり)も、どうぞよろしくお願ひいたします。

119回-津 孝/ 総会・新入歓迎会の再開おめでとうございます。残念ながら7月8日は、弟のコンサート(東京藝術大学音楽学同窓会7年コンサート)と重なってしまい、欠席ですが、盛会を心より祈念いたします。

120回-飯塚理子/ 総会参加させていただきます。次のお集まり(10月? でしょうか)にはぜひと思っております。

121回-南橋 雅夫/ 総会参加希望します。

124回-植木美帆/ 出席希望

128回-真貝 貴子/ 総会、並びに新入歓迎会の参加費を振り込みました。第74期(10月)に参加できなくなり、別の友人計3名で参加させていただきます。

128回-須山 志乃/ 総会参加希望します。

128回-山田 謙二/ 総会参加希望です。予定が合えば総会に参加いたします。よろしくお願ひいたします。

129回-津 孝也/ 東大工学部4年の生と申します。青山会への入会希望及び、東京総会への参加希望でご連絡させていただきました。お手紙受け取りましたが、ご対応のほどよろしくお願ひ致します。同期の山田 謙二君からの紹介。

年会費納入者一覧; R5.4.1~R6.3.31 <<2023 (R5) 年度>>

- |  |  |   |  |   |   |  |
|--|--|---|--|---|---|--|
| 51回(1名) 北村 茂   | 68回(7名) 上村 謙子<br>重野 康人<br>竹石 肇<br>長沼 誠二<br>濱田 庄司<br>渡邊 公夫<br>渡邊 千鶴   | 79回(10名) 伊藤 毅<br>内山 修<br>小田 章治<br>河 正子<br>川上 康夫<br>小池 康義<br>鳥羽 正尚<br>富山 浩司<br>林 綾子<br>丸山 直昌 | 84回(7名) 朝倉 仁樹<br>田崎 正巳<br>田中 昌夫<br>野口 俊介<br>嶋 昌樹<br>野野 郁夫<br>鈴木 立也   | 91回(1名) 長田 充                              | 100回(2名) 小林 一大<br>吉原 貴之                             | 108回(1名) 山本 直子   |
| 56回(4名) 赤坂 長弥<br>井上 菊雄<br>加藤 勝則<br>皆川 正明   | 69回(6名) 青木 利祐<br>小黒 朋弘<br>藤藤 隆志<br>高木 敏之<br>永井 晴美<br>矢川 一義   | 80回(7名) 青木 隆次<br>大霧 博之<br>長 正子<br>川名 正敏<br>小林 亮介<br>清水 友一<br>竹本 泰子                          | 85回(5名) 今井 豊重<br>奥村 基<br>塩田 拓哉<br>堀 大輔   | 92回(2名) 土屋 泰彦<br>前田 光俊                    | 101回(5名) 浅香 美貴<br>折笠 智則<br>鈴木 由貴子<br>星野 智則<br>星野 智則 | 110回(1名) 酒井 優理子  |
| 59回(5名) 梅沢 貞雄<br>岡田 久<br>茂泉 喜彦<br>高橋 晴夫<br>納谷 喜郎                                     | 70回(3名) 金子 常吉<br>杉野 剛博<br>高城 英雄  | 81回(4名) 荒川 洋<br>越野 昌芳<br>成海 孝二<br>山田 徹  | 86回(3名) 斎藤 健<br>宮腰 重三郎<br>吉井 正行  | 93回(2名) 伊藤 剛<br>近 貴志                      | 102回(1名) 関谷 直也                                      | 115回(2名) 岡村 晋之祐<br>小甲 洋輔   |
| 60回(6名) 金山 常吉<br>杉野 剛博<br>高城 英雄<br>中田 亨<br>早川 貞夫<br>松尾 克                             | 71回(7名) 太田 裕<br>柄沢 卓<br>小嶋 修一<br>齋藤 誠<br>高橋 稔<br>堀 清忠<br>松田 裕子   | 82回(6名) 阿部 裕子<br>日下部 朋子<br>小亦 青<br>西山 活子<br>福嶋 元<br>宮村 伸一                                   | 87回(3名) 清水 忠明<br>南 正人<br>渡辺 政城   | 94回(4名) 塚田 信弘<br>野崎 雅志<br>藤沢 健司<br>吉原 直毅  | 103回(2名) 伏見 千尋<br>鷲尾 英一郎                            | 116回(1名) 宮崎 美紀   |
| 61回(9名) 安宅 久憲<br>安藤 友憲<br>草間 光俊<br>小林 孝司<br>小林 元雄<br>小川 雄志<br>田中 宣<br>徳田 晋也<br>長沼 雄峰 | 72回(9名) 小川 省三<br>小林 正昭<br>近藤 正<br>齊藤 俊正<br>島村 礼子<br>菅又 滋<br>菅又 由李<br>中地 光子<br>古山 恒夫  | 83回(6名) 浅間 芳朗<br>遠藤 光郎<br>木下 康司<br>佐藤 扶<br>高山 佳郎<br>山口 虎彦                                   | 88回(2名) 今井 信一郎<br>大越 健介  | 95回(1名) 遊佐 浩子*2<br>99回(2名) 君和田俊裕<br>町田 清彰 | 104回(2名) 成澤 良<br>106回(2名) 古俣 太<br>三田 和弘             | 117回(2名) 会田 俊貴<br>119回(1名) 埴 孝哉<br>121回(1名) 柄澤 秀親<br>124回(1名) 寺井 悠<br>128回(1名) 敦井 晴香 |
| 62回(6名) 石黒 恒<br>内山 隆之<br>小池 健治<br>近藤 智朗<br>曾我 健<br>渡辺 千里                             | 73回(4名) 若宮 剛夫<br>飯村 修<br>田辺 研吉<br>山田 美成  | 84回(9名) 朝倉 仁樹<br>飯塚 雅士<br>島津 孝<br>新宮 和生   | 89回(3名) 岩野 尚子<br>瀧川 久孝<br>山田 敏昭  | ◆その他; 複数年前納者(合計除外)                        | ◆ご寄付  |  |
| 63回(1名) 渡野 康一  | 74回(36名) 藍沢 幹人<br>池田 裕<br>池田 裕治<br>石井 明<br>和泉 潤<br>岩城 修平<br>薄田 祥子<br>大石 憲一<br>大石 正孝<br>大滝 均<br>岡村 康生<br>加藤 博<br>川田 澄子<br>工藤 義夫<br>小林 淳子<br>齋藤 一幸<br>坂井 靖<br>坂爪 久美<br>佐藤 俊栄<br>佐藤 正也<br>島津 満里子<br>関川 修一<br>高橋 保<br>高橋 信郎<br>田村 栄作<br>土屋 義彰<br>中村 義一<br>西田 百合子<br>沼田 清 | 89回(3名) 岩野 尚子<br>瀧川 久孝<br>山田 敏昭   | 90回(13名) 池田 美津子<br>勝山 達志<br>木村 和人<br>小林 到<br>小林 美奈子<br>斎藤 彰<br>斎藤 彩花<br>白川 裕<br>坪井 俊樹<br>中村 泰原<br>茂 茂樹<br>森 豊<br>渡辺 修也 | ◆ご寄付                                      | 長 正子 (3千円)  |  |

◆その他; 複数年前納者(合計除外)

- 74回 岡村康生 (5年分 ~ 2027)
- 74回 川海 潔 (5年分 ~ 2024)
- 74回 山田 澄子 (5年分 ~ 2027)
- 84回 星野紹英 (25年分 ~ 2045)
- 84回 野口俊介 退会・5年分
- 101回 浅香美貴 (5年分 ~ 2027)

◆ご寄付 長 正子 (3千円)

◆会員ご計報◆ (敬称略)

R4.4 ~ R6.3月までの把握分。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

卒回	ご氏名	逝去日
74	臼田 雄二	2022.(?)
82	星野 憲昭	2023.8.25
87	松田 幸治	2023.(?)

集計(~2024.3.31)

納付者数計 305名

納付額計 679千円

目標 400名 80万円

◆本会運営は年費にて、納付ご協力お願いします◆

摘要	令和5年度予算 (2023.4.1 ~ 2024.3.31)	令和5年度決算 (2023.4.1 ~ 2024.3.31)	令和6年度予算 (2024.4.1 ~ 2025.3.31)	備考 (令和6年度分)
期首現預金残高	874,901	874,901	914,472	
収入				
年 会 費	800,000	706,000	680,000	300名 予定
総 会 会 費	600,000	644,000	650,000	総会兼新入歓迎会 6月29日 昼
寄 付	0	100,000	100,000	青山同窓会から
雑 収 入 計	0	0	0	
受 取 利 息	12	5	5	
合計	1,400,012	1,450,005	1,430,005	
支出				
総 会 費 用	700,000	669,000	600,000	総会兼新入歓迎会 6月29日 昼
ま ず ら お 会 補 助	50,000	0	50,000	第5回: 11/15
支 会 報 通 計	650,000	597,921	600,000	第74号: 10月
信 務 局 費	50,000	96,000	96,000	人件費、出張費等
インターネット ホームページ費	15,000	7,473	7,473	ホームページ、サー バーレンタル料等 (R6年分)ベース
手 議 費	0	0	0	会議: なし
会 費 料	55,000	40,040	40,000	
雑 費	0	0	0	
合計	1,520,000	1,410,434	1,393,473	
期末現預金残高	754,913	914,472	951,004	

注1) 新会計年度期間: 2024年度 (R6.4.1 ~ R7.3.31の1年間)



東京◆歴代会長◆



<参考> 齊藤英四郎/36名賞会長のみ 1987~2002歿



初代:山内保次 7期

2代:早山洪二郎 28期

3代:山添直 30期

4代:木村逸郎 30期

5代:山崎重三郎 34期

6代:南学正時 40期

7代:斎藤伸雄 44期

8代:栗林貞一 59期

9代:猪口孝 70期

10代:佐藤信秋 74期

★東京青山同窓会 ヒストリア(総会・会報・役員など)・・・1965=S40年 東京同窓会発足～現在・・・★

(編・工藤貞夫/4期)編夫(74期)

Table with columns: 創立, 西暦, 和暦, 会報No, 発行月, 会長, 副会長, 幹事長, 会計幹事, 事務局長, 会場, 参加者, 会合回, 同窓会, 備考. Rows list historical events from 1965 to 2024.

東京会報12号から2号... 捜索中

東京会報発行以前(青山会報等から収載)

母校100周年講演: 齊藤英四郎36/前・経団連会長 藤「所感」～昔・今・これから～ 1992.10.17 ... 豊かな心と広い愛を持って大々的な人になれ...

◆S62.1発行「青山同窓会名簿」東京青山同窓会編集・金山吉吉

◆東京会報発行・第1号◆

◆初・合同総会(～49期 & 50期～)

◆初総会: S41.11.18

◆東京青山同窓会 発足 ◆

◆創立元年: 役員・役員名簿

◆創立元年: 創立新潟中学校役員